

体験の風を
おこそう

平成29年度

所 報

—事業の成果と記録—



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家

はじめに

国立諫早青少年自然の家は国立第3番目の少年自然の家として昭和52年に設置され、子供たちが恵まれた自然の中で仲間と寝食を共にし、山登り沢歩きなどの多様な野外活動をとおして、心に残る感動、達成感、仲間との連帯、他者への思いやり等の教育的効果を上げるべく様々な事業を展開してきました。

最初の利用団体である長崎県子ども会育成連合会（190人）を受け入れ、一部事業を開始したのは昭和53年3月であり、まさに、この3月に事業（受入れ）開始から満40年を迎え、その間、多くの方々に利用いただき、また、教育事業に参加していただいていることに、ただただ感謝するばかりです。

この度、平成29年度の当所の事業運営及び管理運営の活動の中から、青少年教育の振興等に資すると思われる取組について取りまとめました。日頃から協力いただいている皆様にお届けし評価・助言をいただく、また、他の青少年教育施設の参考にしていただくこと、さらには当所の活動の記録としての役割を担うことなどを目的にしてまとめたものです。関係の皆様には、ご一読いただきご意見ご感想をお聞かせいただければ幸甚に存じます。

さて、昨今の人口減少・高齢化、技術革新、グローバル化、子供の貧困、地域間格差等の急激な社会状況の変化の中、当所は国立の青少年教育施設として、また長崎県諫早市に所在する施設として、様々な教育事業や研修支援など、当所及び地域の教育資源を活用した事業を企画、提供することができました。

特に、青少年や学校・教員対象であるプログラム開発事業、また青少年を対象とした体験活動等の普及啓発の企画・実施にあたっては、他施設・教育機関・自治体等と連携することや共催事業として実施することにより、事業の質の充実を図ることができ、利用の拡大につながることができたと思います。

また、地元諫早市をはじめ、近隣の自治体や関係団体、その他多くの組織との多様な繋がりもでき、地域と共に歩むことの重要性を改めて認識したところです。

そのようなことから、当所の事業等の質的、量的充実に向けた今後のひとつの方向性を見出すことができた1年ではなかったかという気がしています。

事業の実施はもちろん、施設の管理運営にあたりご指導いただきました皆様、共催・後援・協力をいただきました皆様、ご支援・協力をいただいたボランティアや地域の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成30年3月 国立諫早青少年自然の家 所長 内山祐二郎

<目 次>

I 事業の成果	2
1. 中1ギャップに対応したプログラム開発事業.....	3
2. 生活・自立支援キャンプ I - 1.....	9
3. 生活・自立支援キャンプ I - 2.....	19
4. 公立施設とのプログラム共同開発.....	25
5. ながさき多良山系アドベンチャーキャンプ2017.....	35
6. ドリーム陸上教室.....	39
7. ボランティア自主企画事業.....	42
8. 利用者の安全面及びサービス向上のために.....	48
II 事業・管理運営の記録	49
1. 平成29年度教育事業実績.....	50
2. 平成29年度利用実績.....	54
3. 工事等実施状況.....	65
4. 施設業務運営委員.....	69
5. 組織図・職員名簿.....	70
III 参 考	71
平成30年度事業計画.....	72

I 事業の成果

平成 29 年度の教育事業から、次の事業を取り上げご報告いたします。

【プログラム開発】

1. 「中 1 ギャップに対応したプログラム開発事業」(看板事業)

青少年を取り巻く今日的課題である「中 1 ギャップ」に対応するため、関係機関と連携して、モデルプログラムを開発・普及することを目的として企画・実施したものです。

2. 「生活・自立支援キャンプ」

ひとり親家庭の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図ることを目的として企画・実施したものです。

3. 「公立施設とのプログラム共同開発事業」

公立青少年教育施設と連携して、青少年の今日的課題に対応したプログラム開発することを通して、青少年教育施設の教育力向上を目的として企画・実施しているものです。

【普及啓発】

4. 「ながさき多良山系アドベンチャーキャンプ 2017」(長期キャンプ)

チーム力・コミュニケーション力を育む冒険教育プログラムの効果を体感し、理念を理解するとともに、教育手法を習得することを目的として企画・実施したものです。

5. 「ドリーム陸上教室」

オリンピックメダリストを招聘し、陸上教室を開催。個人の基本的な技術の習得やチーム力の向上を図るとともに、参加者同士の交流を深めることを目的として企画・実施したものです。

6. 「ボランティア自主企画事業」

ボランティア自身が主体的に企画・実施する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実を図り、ボランティアを育成することを目的として企画・実施したものです。

【その他】

7. 利用者の安全面及びサービス向上

「安全な環境」や「快適な環境」とするために、本所として取り組んだ内容をまとめました。

中1ギャップに対応したプログラム開発事業

平成30年2月8日(木)～3月3日(土)

【担当：山口 圭吾】



1. 背景

文部科学省の平成26年度「学校基本調査」によると、最近5年間減少傾向にあった小中学校の不登校が増加に転じているそうです。特に中学校での増加幅が大きく、その一因として中学校進学時の急激な変化になじめない“中1ギャップ”が指摘されています。

このような中、当所は平成28年度に、中学校への進学を目前に控えた小学6年生を対象に、当所で共同生活を送りながら交流を深める「小6交流キャンプ」を試行的に実施しました。参加児童だけでなく、保護者や学校からも好評で、中1ギャップ対策のモデルプログラムになり得るという手ごたえを感じました。

そこで当所は、中でも中学校進学時の人間関係の変化に着目し、この不安要因の解消を図るため、人間関係づくりに効果的なプロジェクトアドベンチャー（以下、PA）の手法等を活用したプログラムを開発することとしました。

※プロジェクトアドベンチャー（PA）とは

アドベンチャーの特性である「自己との対峙、葛藤、自分自身に対する挑戦、仲間との協力、成功体験、達成感」などを生かし、人間が成長するための「気づき」を効果的に体験するための手法として、1971年にアメリカで開発されたもの。学校教育や社会教育、企業研修などの様々な場面で活用されています。

2. 趣旨

(1) 事業の趣旨

青少年を取り巻く今日的課題である「中1ギャップ」に対応するため、関係機関と連携して、モデルプログラム「小6交流キャンプ」を開発・普及する。

(2) 小6交流キャンプの趣旨

中学校への進学を目前に控えた子供たちが、自然の家で共同生活を送りながら交流を深め、進学への不安を払拭し、よい新生活を送れるようにする。

3. 事業の進め方

(1) 事業計画

<平成29年度>

- ・モデルプログラム及び効果測定尺度の検討・開発
- ・当所にてモデルプログラムの実施、効果測定

<平成30年度>

- ・モデルプログラムの効果測定結果をもとに、プログラムや運営方法、効果測定尺度等を改善
- ・当所にて、改善したモデルプログラムの実施・検証

<平成31年度>

- ・開発したプログラムを学校やPTA等主催の同様の行事に活用
- ・他施設等への普及に向けた取組（報告書の作成など）

（２）効果測定尺度の検討・開発

長崎大学大学院教育学研究科 内野成美准教授のご協力のもと、中学校入学前の不安・期待に関する心理測定尺度の開発に取り組みました。

① 予備調査

中学校入学前に対人関係に関して抱く思いについて、「心理測定尺度集Ⅳ（出版：サイエンス社）」を参考にアンケートを準備しました。準備した質問は14項目で、すべて4件法「全然そう思わない」「そう思わない」「少しそう思う」「とてもそう思う」で回答を求めることとしました。長崎県内の小学校6校にご協力いただき、予備調査を実施し、小学6年生408名（男児206名、女児202名）の児童からの回答を得ました。

そこで、まずこの質問紙が、中学校入学前に対人関係に関して抱く思いとして妥当かどうか信頼性を調査したところ、クロンバックの α 係数は0.812であり、信頼性は高いと示されました。

② 因子分析

中学校入学前に対人関係に関して抱くイメージ14項目について因子分析（主因子分析、バリマックス回転）を行った結果、3因子を抽出しました。3因子の累積寄与率は、50.50%でした。

第1因子に負荷量の高い項目は、「誰からも嫌われたくない」「仲間外れにされたくない」「一人であることで、変わった人と思われたくない」「仲間から浮いているように見られたくない」「みんなとちがうことはしたくない」「できるだけ敵は作りたくない」でした。したがって、この因子を「関わりの中での自己」としました。

第2因子に負荷量の高い項目は、「中学校では新しい友達を作りたい」「ちがう小学校の子に会えるのを楽しみにしている」「できるだけ多くの友達を作りたい」「中学校生活が楽しみだ」「中学校では新しいことにチャレンジしてみたい」でした。そこでこの因子を「新しい出会いに対する期待」としました。

第3因子に負荷量の高い項目は、「親しい友達ができるかどうか心配だ」「ちがう小学校の子と仲良くなれるか不安だ」「周りの子からいじめられないか心配だ」でした。したがって、この因子を「対人面での不安」としました。

このように、中学校入学前に抱く対人関係に関する項目は、「関わりの中での自己」「新しい出会いに対する期待」「対人面での不安」の3つで構成されることが明らかとなりました。

質問項目は以下の14項目で、因子分析を行った結果、次の3因子に分けられました。

【第1因子：関わりの中での自己】

1. 誰からも嫌われたくない
2. 仲間はずれにされたくない
3. 一人であることで、変わった人と思われたくない
4. 仲間から浮いているように見られたくない
5. みんなとちがうことはしたくない
6. できるだけ敵は作りたくない

【第2因子：新しい出会いに対する期待】

7. 中学校では新しい友達を作りたい
8. ちがう小学校の子に会えるのが楽しみだ
9. できるだけ多くの友達を作りたい
10. 中学校生活が楽しみだ
11. 中学校では新しいことにチャレンジしたい

【第3因子：対人面での不安】

12. 新しい友人ができるかどうか心配だ
13. ちがう小学校の子と仲良くなれるか不安だ
14. 周りの子からいじめられないか心配だ

(3) モデルプログラムの実施

① 対象・参加人数等

対象は諫早市内の小学6年生とし、市内全28校のうち、当所からの送迎時間を考慮し、下記の19校に限りました。各ブロックの対象校は、中学校区を単位としながら、対象児童の総数が概ね均一になるよう設定しました。

参加者数は72名で、うち男子35名、女子37名でした。

ブロック	小学校	期日(2泊3日)
A	諫早小, 小栗小, みはる台小, 上山小	2/8(木)～2/10(土)
B	本野小, 御館山小, 真崎小, 真城小	2/15(木)～2/17(土)
C	北諫早小, 上諫早小, 森山西小, 森山東小 高来西小, 湯江小	2/22(木)～2/24(土)
D	真津山小, 西諫早小, 長里小, 小長井小 遠竹小	3/1(木)～3/3(土)

② プログラム

学校によって到着時間は多少前後しましたが、おおよそ以下の日程で展開しました。

1日目	2日目	3日目
	6:00 起床 6:15 朝食 7:00 登校	6:30 起床 清掃・片付け 7:30 朝食
(学校)	(学校)	8:30 交流タイム⑤
16:15 はじまりの会 16:35 交流タイム① 18:00 夕食 19:00 交流タイム② 20:00 宿題, 明日の準備 21:30 入浴 22:15 就寝	17:00 交流タイム③ 18:00 夕食 19:00 交流タイム④ 宿題 21:30 入浴 22:30 就寝	13:00 3日間のふりかえり おわりの会 14:00 終了 学校まで送迎

③ 活動の様子



【交流タイム① アイスブレイク】

アイスブレイクとして、お互いの名前を覚えるゲームや共通点を見つけるようなゲームなどを行いました。

また、このキャンプの重要なテーマである「チャレンジ」についてゲームを通して解説し、①それぞれが他者との関わりについてチャレンジすること、②それぞれのチャレンジを支え合うことを確認しました。



【交流タイム② ビーイング】

キャンプの目標設定の時間として、この3日間でチャレンジしたいことを各自カードに記入し、各グループ内で共有する時間を設けました。カードは模造紙に貼りつけ、いつでもみんなで確認できるようにしました。



【交流タイム③ 課題解決ゲーム】

2日目の帰着後は、PAのコースを用いた課題解決型のゲームに取り組みました。数種類あるコースの中から、今回は柱の間に張られたワイヤーケーブルの上を渡ってゴールを目指すという活動（モホークウォーク）を行いました。一人の力ではうまく進むことができないため、自然と男女問わず手をつないだり、声をかけ合ったりしていました。全員が渡り切った瞬間、歓喜の声が上がり、ハイタッチをする姿も見られました。この活動を機に、一気に一体感が高まりました。



【交流タイム④ ふりかえり】

課題解決ゲームのふりかえりでは、「一人ではできないことも、みんなでやればできるということを学んだ」「みんなと協力するのは難しかったけど、みんな仲良くなれたので良かった」といった意見が聞かれました。

その後、宿題が終わった後は、みんなでたき火を囲んでティータイムを楽しみました。途中、全員でゲームを楽しんだり、中学校で楽しみにしていることなどを話したりして過ごしました。



【交流タイム⑤ 野外炊事】

最後の交流活動では野外炊事に取り組み、ダッチオーブンを使ってピザを作りました。生地作りから男女仲良く取り組み、終始、笑顔が絶えませんでした。自分たちで生地から作って焼き上げたピザの味は格別だったようで、キャンプのいい思い出になったようです。



【3日間のふりかえり】

最後のふりかえりでは、「勇気を出せば、すぐに友達ができるということに気づいた」「中学校で友達と仲良くなれる自信を持つことができた」「中学校での不安が減った」といった意見が聞かれました。

また、中学校生活で頑張りたいことでは、「友達をたくさん作ることができるように、自分から頑張って話しかけたい」「いろいろなことにチャレンジしていきたい」といった意見が聞かれました。

(4) モデルプログラムの効果測定 (本調査の実施)

開発したアンケートをキャンプの開始時・終了時に実施し、その分析を内野准教授にご協力いただきました。

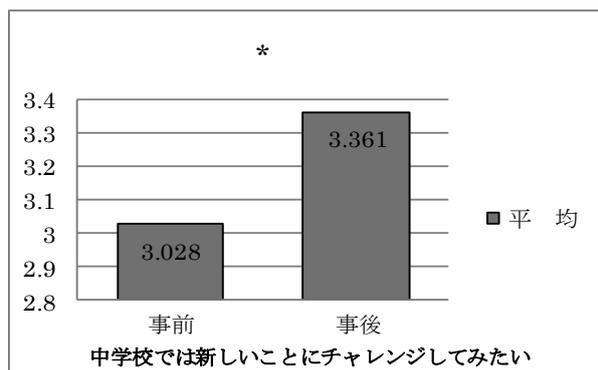
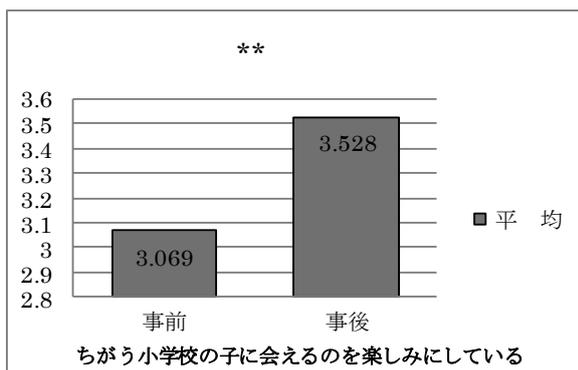
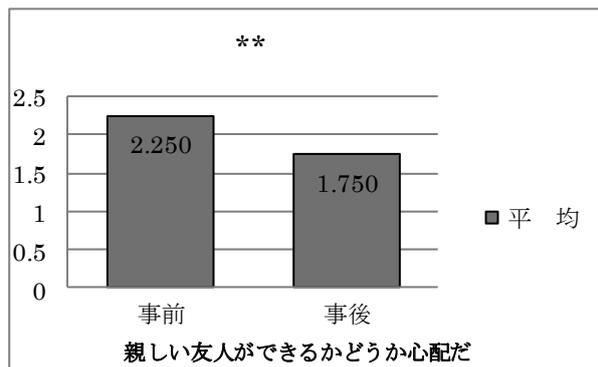
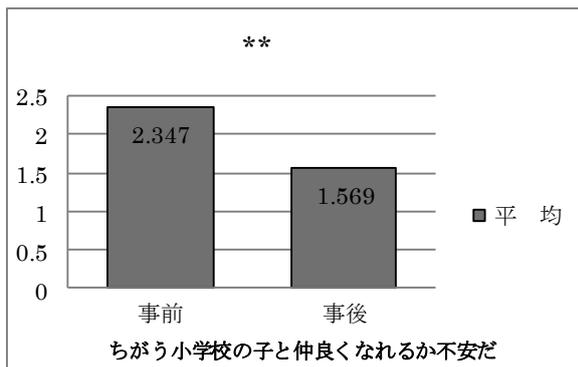
調査の結果、第1因子である「関わりの中での自己」については、有意差は見られませんでした。この結果に関しては、自分をどうとらえるか、あるいは対人関係の中でどういう自分でありたいかということは、本人のこれまでの経験やパーソナリティに寄るところが大きく、またちょうど思春期であるという発達段階から考えても、短期間で“自分は自分”というような考え方に変わるとは考えにくいいため、予想された結果であると考えられます。

次に、第2因子である「新しい出会いに対する期待」については、事前調査の平均が3.37であったものが3.62に上がり、1%水準で有意な差が見られました。このことから、キャンプを体験し、新しい出会いに対する期待が高まったことが推測されます。

第3因子である「対人面での不安」については、事前調査の平均が2.19であったものが、事後調査では1.73に下がり、1%水準で有意な差が見られました。このことから、キャンプを経験したことにより、対人面での不安が軽減されたことが推測されます。

これらのことから、モデルプログラム「小6交流キャンプ」は、中学校入学前に抱く対人面での不安軽減と新しい出会いへの期待の促進につながったと考えられます。

その他、各項目間で差が見られた項目は以下のとおりです。



4. 成果と課題

(1) 成果

今回のモデルプログラムは様々な点を考慮し、通学しながらの2泊3日という日程で実施したため、実質2日間ほどの短期間でした。しかし、調査結果から短期間ながらも対人面での不安が軽減されるとともに、新しい出会いへの期待が促進されたことが明らかになりました。中でも、「ちがう小学校の子と仲良くなれるか不安だ」「ちがう小学校の子に会えるのを楽しみにしている」「中学校では新しいことにチャレンジしてみたい」の項目はその差が顕著でした。

これは、P Aの手法等をベースにして、他者との関わりが求められる活動を段階的に仕組むとともに、他者との関わりについてチャレンジすることを意識づけしたことが効果的であったと思われます。また、日中の活動で参加者相互の関係づくりが促進されたため、食事や入浴等の生活時間においても自然と交流が深まったことも伺えます。

(2) 課題

今回は当所が所在する諫早市の小学6年生を対象に、2泊3日のキャンプを通学型で実施しました。しかしながら、通学型では対象が制限されるため、今後は他地域への普及を見据えて、週末等を利用した1泊2日のキャンプを実施し、その効果を比較検証する必要があると考えます。

(3) 今後の展望

諫早市では、地域によってはP T A等が中心となって、すでに小学6年生の交流を図るレクリエーション等の行事を行っているところがありますが、本モデルプログラムのようにP Aなどの教育手法を活用することで、より効果を高めることが期待できるのではないかと考えます。今後はP T A等への普及を見据えて、関係機関に働きかけていきたいと思えます。

生活・自立支援キャンプ I-1

「わくわくチャレンジキャンプ」

平成 29 年 10 月 6 日（金）～9 日（月）3 泊 4 日 【担当 原 将成】

1. 目的
 - ① 共同宿泊生活体験を通じて、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣を身につける。
 - ② 家庭で生かせる献立作りや調理法、栄養バランス等の食育を身につける。
 - ③ できる体験を積み重ね自尊感情を高める。

2. 対象 大村市母子寡婦福祉連合会に登録している子供 9 名

3. 日程

	午前	午後	夜
6 日 (金)	○オリエンテーション ○勉強 ○昼食（野外炊事）	○仲間作りゲーム ○テント設営 ○夕食（野外炊事）	○勉強 ○星空観察 ○1 日の振り返り ○入浴・就寝
7 日 (土)	○朝食（野外炊事） ○沢登り（深海川コース） ○昼食（弁当）	○洗濯 ○食育研修・献立作り ○勉強 ○夕食（レストラン）	○勉強 ○本の読み聞かせ ○1 日の振り返り ○入浴・就寝
8 日 (日)	○朝食（レストラン） ○アイロンがけ ○焼板作り	○昼食（レストラン） ○オリエンテーリング ○勉強	○ナイトハイク ○1 日の振り返り ○入浴・就寝
9 日 (月)	○朝食（レストラン） ○買い物体験 ○昼食（野外炊事）	○家族への手紙 ○全体の振り返り ○解散	

4. 指導の実際

(1) 1 日目

【オリエンテーション】

子供たちに班を越えて全体への帰属意識を持ってもらいたいという思いから、最初に「みんなは、どんなことも自分たちでチャレンジするチャレンジ村の村人です。チャレンジ村は一つの家族。みんなで協力してがんばりましょう」と話しました。

【学習】

学習習慣の定着を図るため、学習を行いました。大人が班に関係なく声をかけることができました。早く宿題が終わった子供に対しては自然の家で学習プリントを用意して対応しました。学習習慣を定着させるため、今回のキャンプでは必ず学習の時間を設定し、時間内で集中して取り組むように支援を行いました。

【昼食作り】

最初のチャレンジである野外炊事を行いました。野外炊事のメニューはそうめんとそうめんチャンプルーです。具材を増やしたり減らしたりして調理すると多くのバリエーションを簡単に作れるということを実感してほしいと思い、このメニューとしました。子供たちが全員包丁を使えるように、班付スタッフが指導を行いました。

【仲間作りゲーム】

午後は、仲間作りゲームを行いました。ゲームの内容は①後出しじゃんけん②タイミン
グあわせゲーム③前後左右④新聞折りゲームです。「失敗しても大丈夫。何度でもチャレンジしていいよ。結果よりも過程が大事だよ」とゲームを通じて伝えました。このゲームにより、子供たち同士、子供とスタッフも急速に心の距離感が近くなったと感じました。

【テント設営】

初めてのテント設営では、子供たちが協力して自分たちのテントを設営することができました。説明を受けた後、テントの梁を四苦八苦して接ぎました。だんだんテントの形が出来上がっていくと子供たちは大興奮でした。できあがると早速テントの中に入り、「秘密基地みたい!」「わくわくする!」と、楽しそうに過ごしていました。

【夕食作り】

夕食にカレーを作りました。カレー作りでは、初めての薪割りに挑戦し、火起こしや包丁体験、皿洗い等、準備・調理・片付けを行うことができました。薪割りでは、安全指導を行った後、鉈を使わせました。はじめはおっかなびっくりでしたが、スタッフと一緒にいるうちに上手になりました。包丁の使い方は2回目とあってだいぶ慣れてきました。火起こしは苦戦しました。「うまく火がつかない」「すぐ火が消えてしまうなんてだろう」と子供たちは悩んでいました。子供たちは薪を目一杯詰め込んでいたので、空気が通らず火がつきませんでした。スタッフが空気を通るように薪を組むといいと助言すると成功しました。火を囲んで歓声が上がりました。出来上がったカレーに子供たちは大満足でした。

【振り返り活動】

振り返り活動では、できるようになったこと心に残ったことを自分でまとめ、班で交流を行いました。今回のキャンプでは、自尊感情を高めるためにも振り返りを重視し、毎日寝る前に振り返りを行いました。特に、できるようになったことをシールに貼っていく“がんばリング”を全員作成しました。

以下に1日目の子供の振り返りをいくつか掲載します。

- ・ 今日ほとんど野外炊事でした。1回目のそうめん作りでは、結構うまく行き過ぎてびっくりしました。そうめんチャンプルーは少し味が濃ゆかったけど、おいしかったです。2回目のカレー作りでは、自分は最初から火の当番でした。最初は結構火が熱くて、大変だったのですが、だんだん慣れて楽しくなりました。自分の育てた火で作ったご飯・コーンカレーは最高でした。火をつけたり、薪を作ったりするのが少しうまくなった気がしてうれしかったです。
- ・ 新しい友達ができました。
- ・ 虫が少し平気になりました。
- ・ お皿洗いの効率が上がりました。
- ・ 包丁は使ったことがなかったけど、やってみるもんだなと思いました。

(2) 2日目

【朝食作り】

2日目の朝食はホットドック作りを行いました。作り方は簡単で、ホットドック用のパンに具材を挟み、アルミホイルで包んで牛乳パックに入れ、牛乳パックごと燃やします。家でもできるように、トースターで自分たちでもできると助言しながら作りました。3回目の野外炊事とあって、包丁の使い方も慣れてスムーズに調理を行うことができました。

【沢登り】

朝食後は沢登りを行いました。子供たち全員が初挑戦でしたが、班で協力して沢を登る姿を見ることができました。最初は水に濡れることに抵抗があった子供もいましたが、慣れてくると頭まで水につかっていました。深い場所では全員が手をつないで、背の低い子がおぼれないようにしていました。滝を登る際には、どの難易度の滝を挑戦するのか、登る順番はどうするのか、誰が手をつないで誰が支えるのか等、班でしっかりと話し合っていました。沢登りの途中では落ち葉の上を歩く体験も行いました。子供たちはふかふかの落ち葉の上を歩いて感触を楽しんだり、落ち葉をめくって腐葉土に分解されていく様子を観察したりしました。全員滝を登ることができ、子供たちの大きな自信へとつながったと考えます。

【洗濯】

午後は、沢で濡れた服は洗濯機を使って洗濯を行いました。洗濯機の使い方を学んだり、服を入れてみてどれくらいの洗剤の量を入れたらいいのか考えたりして、子供たちだけで洗濯を行うことができました。

【食育研修】

洗濯後、食育研修を行いました。まずは、いつも食べている食べ物の大切さ、命の尊さを感じてほしいという思いから絵本『いのちをいただく』の読み聞かせを行いました。その後、栄養バランスを考えた献立作りの大切さや、献立とは食材のたし算ひき算で簡単にできることを学ばせるために、オリジナル紙芝居の『きつねのこんちゃん献立作り』の読み聞かせを行いました。

その後、最終日の昼食のオリジナル献立作りを班で行いました。金額を班で3,000円に設定して献立の具体案を立案させました。その際、店舗のチラシを用意して金銭感覚も学ばせました。

【読み聞かせ】

2日目の夜には、諫早市立図書館の職員の方に読み聞かせを行っていただきました。ブックシアターやあやとりを使った手品、絵本の読み聞かせ等、子供たちの心をほぐし、心を豊かにする取り組みを行っていただきました。特に、食育につながる野菜の断面の布製の紙芝居を行っていただき、実際に手に触れて野菜の質感を体感することができました。リラックスした空間の中で、子供たちとスタッフが親子のように寄り添いながら聞くことができる素敵な時間を過ごすことができました。

以下に2日目の子供の振り返りをいくつか掲載します。

- ・ いや～疲れた。沢登りお疲れ様です！ズブ濡れ！寒かった～！！なんか前よりも体力がついたなあと思えた一日でした！！
- ・ 沢登りの時、班のいろんな人に助けてもらいました。この班には「知・力・いやし」の三拍子がそろっています！！
- ・ 沢登りで一番きつかったのは、川が深いところだったり、滝のところでした。深いところは声をかけてもらったり、手をつないだりして安全にできました。また、滝のところでは腕と腕をつないで引き上げてもらいました。班の声かけがあってすごく助か

ったし、滝を上れたから良かったです。寒かったけど楽しかったです。またいつかやりたいです。

- ・洗濯を自分でできるようになりました！
- ・献立作りをしました。ぼくらの班は焼きそばに決まりました。みんなと話していくらにするとか、いろんなアイデアが出て、美味しそうなイメージができました。
- ・班のテーマの「一人ひとりを大切に楽しむ」を目標に、明日も思いっきり楽しみたいです。みんな恥ずかしがらずに、「大丈夫！」「がんばろう！」などの声かけをしていたのですごいと思いました。なので、自分も負けられないと思い、自分もがんばりました。
- ・（今日はできることがたくさん増えたので）明日もできることを増やして楽しく過ごしたいです。

（3）3日目

【アイロンがけ】

朝食後、昨日干した洗濯物にアイロンがけを行いました。子供たちにとって初めてのアイロンがけの体験です。安全に使えるようにスタッフが指導を行いました。子供たちは、服のタグを見ながらアイロンをかけることができるか確かめました。普段は見ることのない服のタグに、様々な情報があることに気がつき、「この服はあて布をしないとだめだ」「アイロンをかけなくてもいい服がたくさんある」等、発見の連続でした。実際にアイロンをかけて、「こんなに簡単にかけることができるとは思わなかった」「アイロンをかけたらいい匂いがする」「湯気を立てながらしわがなくなっていく」「これなら家でもできる」等、声を上げていました。

【焼き板作り】

思い出作りとして焼き板作りを行いました。全員焼き板初挑戦で、興味津々でした。のこぎりや錐を使ったことのない子供がいて、みんなで協力して作成しました。火にくべる際には、「火ってこんなに熱いんだ」と驚きの声が上がりました。木の木目に沿って切ったり、木の硬い部分や柔らかい部分を発見したり、焼き終わった後に磨くと輝くこと等、様々な体感を通して学びました。子供たちは思い思いに、このキャンプで心に残ったことやこれから大切にしたい言葉、イラスト等を書き込んで完成させることができました。

【オリエンテーリング】

午後は、子供たちが楽しみにしていたオリエンテーリングを行いました。子供たちだけで、地図を頼りに野外フィールドに点在する目印となるポストを見つけていく活動です。自分たちの力だけで解決していくとあって、子供たちは真剣に地図を確認していました。その際、子供たち同士の身体的距離がとて近くなっていると感じました。子供たち同士の心理的距離が近くなっている証拠です。

子供たちは途中何度も迷ったり、時には班の中で意見が対立したりする場面もありましたが、無事活動を終えることができました。子供たちに、マザーテレサの『愛の反対は無関心』の言葉を紹介し、けんかすることは、それだけ相手のことを思っているからこそです、と話しました。1日目と違い、子供たちは自分の思いを班のみんなにぶつけることができました。1日目は、友達の言うことすることに従っていた子が、自分の意見やアイデアを堂々と言い、班を引っ張る姿をみることもできました。それだけ、その班の支持的風土が醸成されたことの表れだと考えます。

安全管理の面では、班のスタッフをこれ以上迷うと危険な箇所に分散して配置し、常に無線で情報を共有しながら子供たちの位置をつかみ続けました。子供たちに任せるために、見えない安全管理を徹底しました。

活動を終え、子供たちは口々に、「全部クリアーできなかったから、来年は絶対にクリアーしたい」と声を上げていました。

【ナイトハイク】

夜はナイトハイクを行いました。ランタンの光を頼りに山道を歩きました。途中、ランタンの光を消し、一人ひとり暗い山道にたたずむ活動を行いました。暗い闇に慣れると、それまで見えなかったものが見え、聞こえなかったものが聞こえてきます。黒々とした木々、頭上の星々の輝き、虫や鳥の声、森の匂い、そして自分の内面。最後尾にたたずんだスタッフが前に座っている子供の手を握り、そしてその子がまた次の子の手を握り、全員が手をつなぎながら再集合しました。中には、安心して涙を流す子もいました。「みんながいると安心した」「暗い中、一人がこんなに怖いとは思わなかった」「星空がこんなに明るいとは思わなかった」等、子供たちはみんなの手を握りながら口々に感想を伝え合っていました。

ナイトハイクの最後は、星空観察を行いました。広場で寝転んで流星群を観察することができました。「こんなすごい星空、生まれてはじめて見た！」と子供たちは感動していました。

【絵本の読み聞かせ】

ナイトハイクから戻ってきて、『いのちのつながり』という絵本の読み聞かせを行いました。だれでも、お母さんがいて、そのお母さんにもまたお母さんがいて・・・と命はつながっていて、今ここにいることは奇跡の連続で、だからこそ、一人ひとりがかけがえのない大切な宝物なのだと思いたいと考えていました。家庭の事情で、寂しい思いをしている子もいます。子供たちの顔がすこしでも上がるように願いをこめて読みました。今回のキャンプでは、普段おうちの人がしていることを自分たちの力で成し遂げることができました。

【家族への手紙】

読み聞かせ後、今までの体験を踏まえて家族への手紙を書きました。ある子供が書いた「少しでもいいから、僕に頼ってください」という文に胸が詰まりました。子供の心の底から思いを振り絞った一言です。親と思いがすれ違うこともありますでしょうし、触れ合いがなかなかできない家庭もあります。このたった一言に、愛がほしい子の姿、家庭の姿が透けて見えた気がしました。子供たちは、自分たちができるようになったことを思い思いに書き、これから頑張りたいと綴っていました。必死に親とつながっていたい、もっと構ってほしい、そんな子供たちの心の塊の手紙でした。切手を貼る体験をほとんどの子供がしたことなく、照れながら切手を貼っていました。子供たちの顔は誇らしげでした。

書いた手紙は、自分たちの手でポストに投函しました。子供たちの表情は様々でした。誇らしげな顔、心配そうな顔、決意あふれる顔、迷いの見える顔・・・どんな気持ちで投函しているのでしょうか。そして、親はどんな気持ちでそんな思いの詰まった手紙を受け取るのでしょうか。

以下に3日目の子供の振り返りをいくつか掲載します。

- ・ アイロンがけ、無理かな思ったけど意外に良くできた！分かったことがいっぱいあった。
- ・ 冒険時に分かったけど、体力上がった。絶対！
- ・ 今日、班で協力することが多くて、班のみんなととっても仲良くなりました。冒険でみんなワイワイ言いながら楽しくできました。みんなが自分の意見を言ったり、人の意見を聞いたりし、まとまっていたのですごいと思いました。
- ・ みんなでオリエンテーリングの時、山道を歩いていて道に迷ったこともあったけど、みんなで地図をみて場所が分かり、無事に帰れてよかったです。

- ・ ナイトハイクは一人でいるときにすごく怖かった。一人別世界に来たのかと思って怖かった。周りが真っ暗だった。でも星がすごくきれいだった。流れ星も見れて、来てよかったなと思った。
- ・ ナイトハイクでは星を見たり、虫の言葉を聴いたりしてリラックスしました。星の絶景ポイントでは、流れ星も見れて、言葉に表せないほどきれいでした。

(4) 4日目

【清掃活動】

出発日なので、みんなで入念に掃除を行いました。役割分担は特には決めませんでした。声を掛け合わずとも、自然と役割分担ができて掃除をしていました。これはとても意外でした。阿吽の呼吸という言葉がありますが、正直ここまでになるとは思ってもいなかったもので、感動しました。

【買い物体験】

最後の活動は自分たちで作った献立を実現することです。スーパーに行って、買い物を行いました。電卓を片手に商品とにらめっこ。「こっちの方が安い」「あっちがお得だ」「これ苦手な人もいるから別のにしようよ」「どっちが新鮮なのかな」「切っているところがギョッと詰まってる野菜を選ぼうよ」「計画した計算と合わない。どうしよう」「胸肉をもも肉に変えよう」「同じたまねぎでも産地で値段が違うよ」とみんなでワイワイと買い物。何度も計算し直し、いざレジへ。祈るようにレジの金額を見つめる子供たち。どの班も設定金額内で買い物をすることができ、歓声が上がりました。

【昼食作り】

自然の家に戻って早速調理しました。さすがはチャレンジ村で鍛えられた子供たち、調理道具から自分たちで準備し、てきぱきと調理していきました。すごいなと感心したのは、献立作りで出たアイデアをなるべく採用しようとアイデアを合体させた献立を作ったことです。焼きそばに決定した班で、オムライスや焼肉が食べたいといていた子がいました。その子のアイデアをつぶさずに、薄い卵焼きを作って包み、焼きそばパンと肉ゴロゴロ焼きそばを作り上げることができました。子供たちの柔軟で優しい発想に頭が下がる思いでした。1班は『こだわり海鮮ちゃんぽん&わくわくフルーツ』、2班は『海鮮焼きそば&焼きそばパン&肉ゴロゴロ焼きそば&フルーツポンチ』を作り上げることができました。学校では今までおかわりをしたことがない子も、当たり前のように笑顔でおかわりをするようになっており、見事完食。後片付けも、作りながら片づけを行っていたのであっという間に終わることができました。これも初日からの野外炊事の経験が生かされています。

【振り返り活動】

3泊4日のキャンプはあっという間でした。最後の振り返りでは班を越えて全員で振り返りを行いました。子供たちは心に残ったことやできるようになったことなどを自由に発表しました。子供たち全員に配った記念写真をみんなで見ている際、肩を寄せ合ってじっと見ている姿やじゃれあいながら楽しい思い出を語り合う姿を見ることができ、まるで家族の団欒風景のようでした。最後にスタッフが子供一人ひとりに言葉をかけました。スタッフの一人が子供たち一人ひとりに「大好きだよ」と声をかける姿が印象的でした。

以下に4日目の子供の振り返りをいくつか掲載します。

- ・いろいろな人との出会いがあって楽しかった。自分でできることを一つでも増やしていきたい。またいろいろな体験をして、自分をランクアップさせたいのでどこかのキャンプでまた来ます。
- ・いろいろな事は、やろうと思えばできる、と思いました。
- ・自分で自分のことを全部やれた。アイロンがけを初めてやったから家でもしたい。
- ・すごく家のことが大変だと思った。
- ・一人でなんでもすることは大変だけど、できたら気持ちいいと思った。やりとげた。

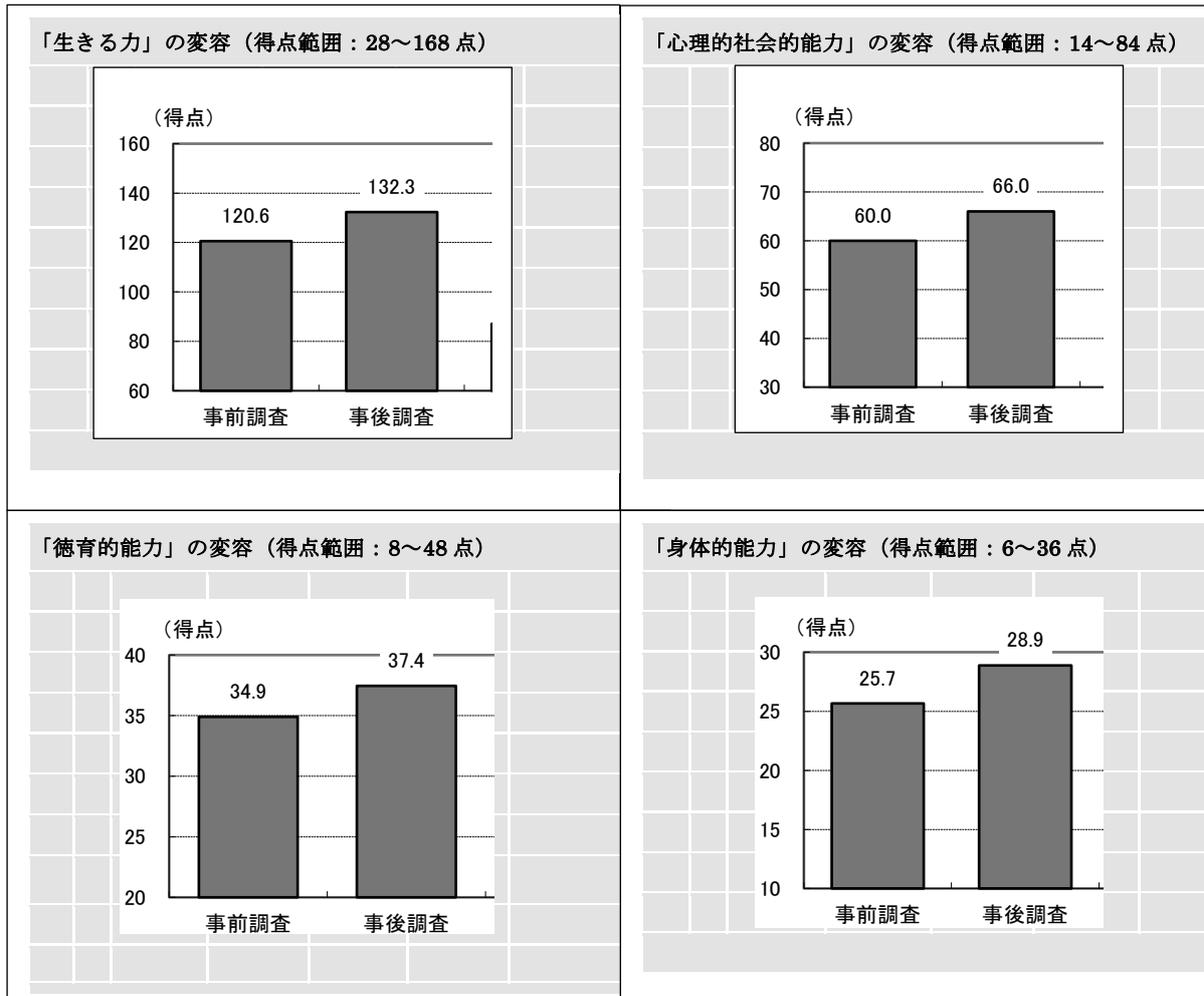
5. IKR 調査から見える成果と課題

キャンプの事前と事後に IKR 調査を行いました。IKR 調査とは、独立行政法人国立青少年教育振興機構が作成した調査で、体験活動による教育効果を測る手法のひとつとして、子供たちの生きる力を手軽に測定できるアンケート調査です。IKR 調査は全部で28項目の質問から構成され、心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力の三つの能力を測り、三つの能力のポイントの総合計(28点~168点中)で生きる力と定義しています。

下図は28項目の事前と事後の変化をまとめたものです。濃い色の網掛けに白文字は上昇した項目、薄い色の網掛けは下降した項目、無地は変化なしの項目です。

(生きる力・28項目の集計結果)

能力	調査項目	事前調査		事後調査	
		M	SD	M	SD
生きる力		120.6	24.0	132.3	19.6
心理的社会的能力		60.0	12.3	66.0	9.6
非依存	1. いやなことは、いやとはっきり言える	4.4	1.2	4.7	1.0
	15. 小さな失敗をおそれない	4.9	1.2	5.0	0.9
積極性	11. 自分からすすんで何でもやる	4.4	1.4	4.6	0.5
	25. 前向きに、物事を考えられる	4.2	0.8	4.6	0.7
明朗性	5. だれにでも話しかけることができる	3.6	1.7	5.1	0.8
	19. 失敗しても、立ち直るのがはやい	4.8	1.2	4.7	0.7
交友・協調	7. 多くの人に好かれている	3.9	0.8	4.4	1.0
	21. だれとでも仲よくできる	4.6	1.0	5.4	0.7
現実肯定	9. 自分のことが大好きである	3.6	1.3	4.1	1.3
	23. だれにでも、あいさつができる	4.8	1.4	4.7	1.2
視野・判断	3. 先を見通して、自分で計画が立てられる	4.0	1.2	4.6	1.2
	17. 自分で問題点や課題を見つけることができる	4.3	1.3	4.6	0.7
適応行動	8. 人の話をきちんと聞くことができる	4.4	1.1	5.1	0.6
	22. その場にふさわしい行動ができる	4.1	0.9	4.6	0.7
徳育的能力		34.9	8.1	37.4	6.5
自己規制	14. 自分かつてな、わがままを言わない	4.1	1.2	4.6	1.0
	28. お金やモノのむだ使いをしない	3.9	1.9	4.3	1.7
自然への関心	6. 花や風景などの美しいものに、感動できる	4.3	1.4	4.3	1.1
	20. 季節の変化を感じるができる	4.9	1.3	5.0	1.0
まじめ勤勉	12. いやがらずに、よく働く	4.3	1.1	4.3	1.2
	26. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	4.7	1.1	4.9	0.6
思いやり	2. 人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.4	1.6	5.2	0.8
	16. 人の心の痛みがわかる	4.2	1.0	4.8	1.0
身体的能力		25.7	5.4	28.9	4.5
日常的行動力	13. 早寝早起きである	4.1	1.5	5.0	1.3
	27. からだを動かしても、疲れにくい	4.7	1.4	4.7	1.1
身体的耐性	4. 暑さや寒さに、まけない	4.3	1.6	4.9	1.8
	18. とても痛いケガをしても、がまんできる	4.6	1.0	4.8	1.3
野外技能 ・生活	10. ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	3.8	1.3	5.1	0.8
	24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.2	1.2	4.4	1.0



（１）成果

＜生きる力＞

生きる力は事前調査と比べて事後は 11.7 ポイント上昇しました。

＜心理的社会的能力＞

自尊感情に直接関わる質問 9「自分のことが大好きである」質問 7「多くの人に好かれている」が共に上昇し、自尊感情の高まりを見取ることができました。また、質問 1「いやなことは、いやとはっきり言える」質問 15「小さな失敗をおそれない」質問 25「前向きに、物事を考えられる」質問 21「だれとでも仲良くなれる」が全て上昇し、キャンプを通じて支持的風土ある仲間作りを行うことができたことが分かります。

献立作りや買い物体験を行うことによって、通例なかなか上昇しないといわれている視野・判断に関わる質問 3「先を見通して、自分で計画を立てられる」質問 17「自分で問題点や課題を見つけることができる」が上昇しました。

＜徳育的能力＞

思いやりに関する質問 2「人のために何かをしてあげるのが好きだ」質問 16「人の心の痛みが分かる」では大きくポイントが上昇しました。前項の支持的風土ある仲間作りの効果であると考えます。

前項同様に献立作りや買い物体験を通して、質問 14「自分かってな、わがままを言わない」質問 28「お金やモノのむだ使いをしない」が上昇しました。

<身体的能力>

野外炊事や、洗濯・アイロンがけを行うことによって、質問 10「ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」質問 24「洗濯機がなくても、手で洗濯できる」が共に上昇しました。特に、質問 10 に関しては事前が 3.8 ポイントに対して、事後は 5.1 ポイントと大きな上昇を示しました。子供の感想の中にも、生活技能が身に付いたことや今後の実践に活かしたいと多くの子供たちが述べていました。

(2) 課題

今回のキャンプでは、できるようになったこと・心に残ったことを中心に自己評価を行い、自己評価をもとに班で他者評価を行いました。さらに、がんばりリンゴの取り組みにより自己の高まりを視覚化しました。そのことにより、自分自身で内面のよさや高まりに気付かせるようにしましたが、自分でも気付けない、自信の無い子もいました。質問 19「失敗しても立ち直るのがはやい」では 0.1 ポイント下降しましたが、失敗を笑いに変えて次の課題に取り組む姿を多く見ることができました。また、質問 23「だれにでも、あいさつができる」では 0.1 ポイント下降しましたが、他団体にもあいさつをする姿を見ることができました。また、星空観察の感動体験や沢登りや冒険での体力向上についても感想で多く見ることができました。しかし、実際のポイント上昇には至ってはいません。したがって、子供たちの行動を振り返りながら、その行動の中の価値に気付かせるような言葉かけを今後積極的に行う必要があると考えます。

6. おわりに

子供たちは少しずつ心開いて寄り添ってきて、心の内の寂しさやきつさを少しずつ吐露していきます。言えない苦しさ、諦める悲しさ、子供たちは様々な思いを抱えています。本当の思いとは裏腹な行動を取る子供もいます。チャレンジ村という一つの家族の中で、心を解きほぐし開放していき、せめてキャンプの中だけでも人の温かさ、愛を実感し、せめて少しでも顔が上がってもらえればという思いで、今後担当やスタッフがもっと児童理解に努めて実施していく必要があると考えます。

「社会教育とは弱い立場にこそなされるべきであり、寄り添う姿勢が必要不可欠である。」この言葉は、社会教育行政従事者はよく聞く言葉です。今回のキャンプで、子供たちに様々な体験をしてもらい、子供たちは大きく成長し、自信をつけることができたと考えます。だからこそ、今後より多くの子供たちにこのキャンプに参加してもらいたいと考えます。毎回来る子供はもちろんですが、まだ来たことの無い子が来れるように声かけをしたり、周知したりしていき、一人でも多くの子供の顔が上がる手助けをすることは社会教育行政の責務であると考えます。

そのためには、母子会に足を運んで話を聞いたり、計画のアドバイスをいただいたり等の母子寡婦福祉連合会との連携は欠かせません。

今後とも、母子寡婦福祉連合会の皆様にご教授・ご協力を仰ぎながら事業を実施していきます。

生活・自立支援キャンプ I-2

「わくわくチャレンジキャンプ」

平成 30 年 1 月 5 日（金）～7 日（日）2 泊 3 日

【担当 原 将成】

1. 目的
 - ① 共同宿泊生活体験を通じて、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣を身につける。
 - ② 家庭で生かせる献立作りや調理法。栄養バランス等の食育を身につける。
 - ③ 正月ならではの行事を体験する。
 - ④ できる体験を積み重ね自尊感情を高める。
2. 対象 島原市・諫早市・大村市・長与町の児童生徒 参加 20 名（申込 32 名）

3. 日程

	午前	午後	夜
5 日 （金）	○オリエンテーショ ン ○調理実習	○昼食（野外炊事） ○仲間作りゲーム ○勉強	○夕食（野外炊事） ○書初め・羽根つき ○一日の振り返り
6 日 （土）	○朝食（野外炊事） ○もちつき ○勉強 ○食育研修	○昼食（おもち） ○洗濯 ○凧作り・凧揚げ	○夕食（レストラン） ○本の読み聞かせ ○一日の振り返り
7 日 （日）	○朝食（レストラ ン） ○アイロンがけ ○調理実習	○昼食（野外炊事） ○振り返り ○解散	

4. 指導の実際

（1）1 日目

【乗り物体験】

今回のキャンプでは、子供たちに乗り物体験もさせたいと考え、自然の家に来るところからプログラムをスタートしました。スタッフが各市町に出向き、子供たちと合流して電車に乗りました。自分でお金を支払って電車に乗る体験をしたことがない子供が多く、大きな自信をつけることができました。また、スタッフや子供たちと交流しながら移動をするので、子供たちは楽しかったと答えていました。

【オリエンテーション】

今回のキャンプは県内各地から子供たちが参加しているので、特に安心して過ごせる雰囲気作りに努めました。人権 CM を教材にして“一人ひとりが大切であること”“いろんな人がいて支えあって生きていること”“安心できる仲間作りが大切であること”を確

認しました。

【昼食作り】

調理実習では、出汁を取る活動に重点を置きました。和食文化が衰退している今だからこそ、まずは出汁を使った料理の美味しさを味わってもらいたいという思いから、『茶碗蒸し』と『五島うどん』を作りました。鰹節や昆布、あごの出汁の取り方を教えました。子供たちは「出汁ってこんな簡単に取れるんだ!」「とっても美味しい!」という感想を口にしていました。

【仲間作りゲーム】

安心できる仲間作りを行うために、ゲームを行いました。班のメンバーで協力して課題に挑戦しました。子供も大人も楽しく遊ぶことができました。

【勉強】

家庭学習の定着を図るために、勉強時間を確保しました。わからない問題のヒントをスタッフが与え、自分で解けるように支援しました。最終日までに、ほぼ全員が課題を終わらせることができました。アンケートの中でも「勉強の時間もたくさん取れてよかった」という意見がありました。

【書初め・羽根突き】

書初めでは子供たちの選んだ正月にまつわる言葉を書きました。園児や小学校低学年の子供もチャレンジしました。スタッフや上学年が筆の使い方を指導しました。羽根突きは経験したことがない子供も多く、大人も含め四苦八苦しなげながら大笑いのひと時でした。

【夕食作り】

夕食は出汁の特性を最大に生かし、なおかつ旬の野菜・肉・魚を栄養バランスよく取れる鍋料理を作りました。この頃には、子供たちは打ち解けた雰囲気の中で役割分担を行って調理を行うことができました。年長者が年少者へ教える姿も多く見られ、異年齢集団ならではの良さを醸成することができました。鍋をつつく姿はまるで一つの家族のようでした。

【読み聞かせ、一日のふりかえり】

ふりかえりの前に、お正月や人権にまつわる絵本の読み聞かせを行いました。本の選定は、諫早市立図書館の職員の方に事前にキャンプの趣旨を説明した上で選んで頂きました。

読み聞かせで温かい雰囲気ができた後のふりかえりでは、できるようになったことを“がんばリング”というシートにシールを貼って表しました。これは、自尊感情を高める工夫として、できるようになったことを視覚化するために行いました。

(2) 2日目

【朝食作り】

朝食はお正月ドックを作りました。ソーセージは赤、かまぼこは白で紅白を表現しました。パンに素材を入れてアルミホイルで包み、牛乳パックの中に入れ、牛乳パックを燃やして焼きました。朝日が昇る中、子供たちは熱々のお正月ドックを楽しみました。

【朝の森のお散歩】

朝食後は森のお散歩をしました。凜とした空気の中、冬の森の中を班の仲間と色々なおしゃべりをしながらゆっくりと歩きました。展望台では、山彦体験をしました。普段は大きい声を出す機会があまり無い子供たちは大声で「ヤッホ!」と叫んでは、返ってくる

山彦に歓声を上げていました。これも自然の家ならではの体験です。

【餅つき】

餅つきでは、みんなで声をかけ合いながら、全員が餅つきを体験しました。お湯の入れ替えやかまどの火の管理等、子供たちは率先して仕事を行いました。美味しい餅をつきあげることができ、子供たちは非常に満足した表情でした。

【凧作りと凧揚げ】

正月ならではの行事として、凧作りと凧揚げを行いました。難しい工程は互いに教え合って作成しました。下級生に上級生が率先して教えていた姿を多く見ることができました。全員が無事に凧を完成させることができました。

凧揚げでは、糸がお祭りしたこともありましたが、みんな笑いながら糸を外していました。普段なら怒るかもしれませんが、お互い許し合える、そんな関係が築けていました。

【アスレチック】

凧揚げの帰り道、アスレチックで遊びました。男女関係無く遊ぶ姿を見ることができました。遊びは子供の活動の原点であり、遊びの中で支え、支え合う体験をします。大人も子供も自然と甘え甘えられる時間でした。この事業では特に、こんな風に安心して遊び、ホッとできる居場所を作ることが大切であると思います。

【食育研修】

「出汁について知ろう！」という表題で食育研修を行いました。まずは、出汁の入っていない無添加の味噌を使ったお味噌汁を飲ませました。子供たちは、「薄い」「おいしくない」といった感想を口にしました。そして、実は出汁が入っていないことを知らせました。

その後、出汁を入れたお味噌汁を飲ませました。子供たちは「ぜんぜん違う！」「とっても美味しい！」「香りがいい！」「味が濃い！」と驚きの声を上げていました。出汁は鰹節のみを使用しました。

出汁の有無で味が変わることを確認した後、出汁のテイスティングを行いました。用意した出汁は鰹出汁・昆布出汁・椎茸出汁・あご出汁です。子供たちに色や香り味をテイスティングさせて、何の出汁かを考えさせました。昆布と鰹はすぐに分かり、次に椎茸が分かりました。なかなか分からなかったのはあご出汁でした。

最後に、この4種類の出汁を最初の無添加のお味噌汁に混ぜて子供たちに飲ませて見ました。

子供たちは「味わい深い！」「香りも複雑でとってもいい香り！」「味が濃厚で何杯でも飲める！」と感動した声を上げていました。合わせ出汁をリアルに体験させることができました。

そして、しおりに掲載している出汁の歴史・うま味の発見・出汁の健康面と栄養面からのよさを講義しました。現代社会において、濃い味の物やハンバーガー・ポテトチップスなどを普段からたくさん食べる子供は多いです。すると、その味しか「おいしい」と感じなくなるそうです。つまり、普段から塩分を過剰に摂取しているわけです。また、栄養を過剰に摂取しすぎたり、「おいしさ」に依存して食べ続けたりしてしまうこともあります。その結果、食欲が落ちたり、決まった時間に食べることができなくなったりする等の様々な弊害が生まれます。

出汁を取った料理を食べ続けると、自然と減塩につながり、食物本来の素材の味を「おいしい」と感じるようになり、美味しい料理をつくることは食生活を豊かにし、発想力を

育みます。さらに、外食と比べ経済的です。また、体によいものを食べる事は、自分を大切にすることにつながり、心を豊かにします。

内容は低学年には難しいとは思われましたが、いずれ将来思い出してくればという思いで食育研修を行いました。今回のキャンプの全レシピはしおりに掲載しているので、家庭に戻って実践してくれたらと思います。

【洗濯・洗濯干し】

家で洗濯ができるようになってほしいという願いから、洗濯体験を行いました。まずは、服のタグの情報の読み取り方を教えました。次に、洗剤の適正な量や洗濯機の使い方を指導しました。子供たちは簡単に洗濯ができることを知り、「家でもすぐやってみよう！」という感想を口にしていました。

洗濯した服は、宿泊部屋で干した。子供たちは部屋にロープを張り、服の重さのバランスを考えながらみんなで干しました。洗剤のいい匂いをかいで、「汗のにおいがいい匂いに変身した！」と喜びの声を上げていました。

【寝る前の団欒】

寝る前のひと時に、カプラという積み木遊びを行いました。一人でまずタワーを作り、その後二人組でタワーを作りました。子供たちは、高さにこだわったり、デザインにこだわったりと思い思いの創作活動に没頭しました。最後に、男子と女子に分かれて、それぞれで村を作ろうというテーマで家や船・鉄道などの街づくりを行いました。片付けも全員で行いました。カプラが終わった後は、子供たちと大人たちで思いっきり遊びました。寝る前の団欒も自立支援キャンプには必要であると考えます。一つの大きな家族として安心して過ごせたひと時でした。

(3) 3日目

【アイロンがけ】

安全に使えるようにスタッフが指導を行いました。子供たちは、服のタブを見ながらアイロンをかけることができるか確かめました。普段は見ることのない服のタブに、様々な情報があることに気がつき、「この服はあて布をしないとだめだ」「アイロンをかけなくてもいい服がたくさんある」等、発見の連続でした。実際にアイロンをかけて、「こんなに簡単にかけることができるとは思わなかった」「アイロンをかけたらいい匂いがする」「湯気を立てながらしわがなくなっていく」「これなら家でもできる」等、声を上げながら活動することができました。

【昼食作り】

最後の活動として、長崎雑煮と七草粥を作りました。今回のキャンプでは、なるべく地元の食材や料理・正月にちなんだメニューを取り入れることにこだわりました。どちらも出汁を取って作る料理で、子供たちは最終日とあって、役割分担を自分たちで行い、最後まで自力で作ることができました。この経験は大きな自信となり、家庭での実践を期待できると考えます。

5. 子供たちの感想

子供たちの感想を以下にいくつか掲載します。

「できることが増えてうれしかった！友達も学校以上に増えたのでうれしかった！！これから私はもっとたくさん友達に話しかけたり、ごはんを作ったりして家の人を喜ばせた

いです。」

「自分でご飯を作ったり洗濯したり，生活に欠かせないことが分かりました。」

「キャンプに参加している間，お母さんが安心して仕事にいける。参加する私も楽しい。」

「山が見えるところに行ってヤッホーしたり，外でいろいろ遊べてよかった。」

「普段できないことができて楽しいし，自分ですから将来役立つと思った。」

「いろいろな料理の作り方がすごくわかった。後，高野豆腐が硬くて割れるということを知った。」

「いろいろな人と楽しめて人のいいところや楽しい場所等見つけることができた。地域ではできないたくさんの友達ができ，いろいろな体験ができた。人にはそれぞれできることとできないことがあるから，そういう時，スタッフや友達が教えてくれたり，手助けをしてくれたりしてとてもうれしかったし，された自分も他の人にもしようという気持ちになった。たくさんの子たちが集まって，性格も年も違うけど，みんなが仲良くしてくれたのはよかった。」

「家で自分で洗濯することを頑張ろうと思った。他にもアイロンやご飯作り，洗い物を自分でしたい。」

「今後の自分の食生活について学べた。今回のきっかけで世界の保健衛生について学ぼうと思えた。」

「これまで，知らない友達にはあまり声をかけなかったけど，今回のキャンプで知らない人とも楽しい事をして遊んだりすれば仲良くなるから大丈夫ということを知り，自信ができました。」

子供たちの感想からも，このキャンプを実施して本当によかったと思います。

6. IKR 調査から

キャンプの事前と事後に IKR 調査を行いました。IKR 調査とは，独立行政法人国立青少年教育振興機構が作成した調査で，体験活動による教育効果を測る手法のひとつとして，子供たちの生きる力を手軽に測定できるアンケート調査です。IKR 調査は全部で 28 項目の質問から構成され，心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力の三つの能力を測り，三つの能力のポイントの総合計（28 点～168 点中）で生きる力と定義しています。下図は 28 項目の事前と事後の変化をまとめたものです。網掛けは上昇した項目です。この結果を見ると，全項目が上昇していて，キャンプの内容が大変効果があったと考えます。

（生きる力・28項目の集計結果）

能力	調査項目	事前調査		事後調査	
		M	SD	M	SD
生きる力		125.4	22.2	145.9	19.9
心理的社会的能力		61.4	11.1	72.8	9.5
非依存	1. いやなことは、いやとはっきり言える	4.3	1.5	5.3	1.2
	15. 小さな失敗をおそれない	4.7	1.3	5.5	0.9
積極性	11. 自分からすすんで何でもやる	4.4	1.1	5.4	0.9
	25. 前向きに、物事を考えられる	4.2	1.4	5.2	1.2
明朗性	5. だれにでも話しかけることができる	4.4	1.4	5.5	0.8
	19. 失敗しても、立ち直るのがはやい	4.8	1.1	5.2	1.2
交友・協調	7. 多くの人に好かれている	3.7	1.5	4.8	1.3
	21. だれとでも仲よくできる	4.8	1.3	5.3	1.1
現実肯定	9. 自分のことが大好きである	4.0	1.8	5.0	1.2
	23. だれにでも、あいさつができる	4.9	1.2	5.3	1.0
視野・判断	3. 先を見通して、自分で計画が立てられる	4.3	1.2	5.0	1.1
	17. 自分で問題点や課題を見つけることができる	4.4	1.2	5.2	1.0
適応行動	8. 人の話をきちんと聞くことができる	5.0	1.1	5.4	1.0
	22. その場にふさわしい行動ができる	4.0	1.1	5.1	0.9
徳育的能力		36.9	7.9	41.7	6.3
自己規制	14. 自分かってな、わがままを言わない	4.6	1.3	5.4	0.8
	28. お金やモノのむだ使いをしない	4.3	1.5	4.9	1.4
自然への関心	6. 花や風景などの美しいものに、感動できる	4.6	1.4	5.3	1.1
	20. 季節の変化を感じることができる	4.7	1.5	5.3	1.3
まじめ勤勉	12. いやがらずに、よく働く	4.6	1.5	5.2	1.0
	26. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.0	1.1	5.3	1.2
思いやり	2. 人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.7	0.9	5.5	1.1
	16. 人の心の痛みがわかる	4.5	1.6	5.0	1.3
身体的能力		27.1	5.6	31.4	4.8
日常的行動力	13. 早寝早起きである	4.0	1.6	5.2	1.2
	27. からだを動かしても、疲れにくい	4.4	1.9	5.1	1.6
身体的耐性	4. 暑さや寒さに、まけない	4.9	1.1	5.6	0.8
	18. とても痛いケガをしても、がまんできる	4.9	1.4	5.2	1.5
野外技能・生活	10. ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.6	1.8	5.5	1.3
	24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.4	1.6	4.9	1.6

*各項目で「とてもあてはまる」を8点、「まったくあてはまらない」を1点としてそれぞれ1点刻み得点化し、項目ごとに平均点(M)及び標準偏差(SD)を算出

7. おわりに

今回のキャンプで、子供たちの食生活について話を聞く機会がありました。コンビニ弁当やレトルト食品を多く食べている家庭が多いことが分かりました。今回のキャンプで行った食育研修は、今後の食生活の改善につながるものと考えます。

参加者アンケートでは、「開催回数を増やしてほしい」「もっと自然体験を取り入れてほしい」「いろんな地域の友達ができてよかった」という意見が多かったため、次年度はこのような点を考慮して企画・実施していきたいと思えます。

また、より多くの子供たちが参加できるよう、各地域の母子寡婦福祉会等との連携をより密にしていくことや事業の開催時期を見直すことが必要であると考えます。

そこで、これまででは市町村単独の母子寡婦福祉会を個別に訪問し、広報の協力を要請していましたが、今回、1月末に開催された長崎県母子寡婦福祉連合会の総会に出席し、今年度の実施報告と次年度の計画について、各地域の担当者に直接説明を行いました。これを機に、これまでつながりのなかった地域の母子寡婦福祉会とも交流することができました。

今後も、関係機関・団体との連携を強化し、より多くの子供たちが参加できるような体制の構築を図っていききたいと考えます。

公立施設とのプログラム共同開発

～「仲間づくり」をテーマとした宿泊体験学習のプログラム開発～

平成 29 年 10 月 26 日（木）～10 月 27 日（金）

【担当：田中 博道】



I 事業の概要

1. 事業の背景と目的

当所が所在する長崎県には、全部で6つの公立青少年教育施設がありますが、いずれも近年、指定管理者制度が導入され、事業の質の向上やプログラムの充実が課題となっています。そこで、公立青少年教育施設の教育力向上を目的に、長崎県教育委員会や長崎県内の公立青少年教育施設と連携し、青少年の今日的課題に対応したプログラム等を開発することとなりました。

開発については、以下の（1）～（3）考え方で進めることとしました。

（1）開発するプログラムのテーマ設定について

昨年度より、長崎県教育委員会の協力を得て、県下の公立施設との研修会を開催し、事業のテーマ設定等について検討を重ねてきました。検討の結果、「仲間づくり」をテーマとした宿泊体験学習のプログラムを開発することとなりました。テーマ設定の理由は、今日、学校における最重要課題の一つであるいじめの問題と次期学習指導要領に対応したプログラムを開発することにあります。

いじめ問題は、今日、学校における最重要課題の一つであり、いじめの未然防止の取組として、豊かな心の育成や、自己肯定感や自己有用感を高めることで育まれる子供たち同士の認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりなど、個の成長や豊かな人間関係づくりを推進することが必要であるといわれています。そこで、青少年教育施設の特徴を活かし、子供たちが自然体験や生活体験、交流体験を通じて、いじめに向かわない態度・能力を育成するプログラムを開発することとしました。

また、次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善への取組みが示されています。「対話的な学び」ができるためには、子供同士の人間関係やコミュニケーション力を高めることが必要です。集団宿泊活動で「仲間づくり」をテーマとして、仲間と協力し困難を乗り越えてやり遂げる達成感を得るようなプログラムを仕組むことにより、クラスへ連帯感が深まり、支持的風土のある学級づくりの手立てになると考えました。

（2）プログラムの効果測定について

プログラムの効果を測定する尺度として、参加者個人の学校生活の意欲・満足度や学級集団の成熟度や雰囲気、学校生活の意欲・満足感に関する参加者の相対的位置などを把握できる「Q-U」を用いることとしました。さらに、子供たちの変容などを把握するため、対象校に聞き取りを実施することとしました。

（3）開発計画について

今年度は当所において試行し、続いて平成 30、31 年度に他の公立施設が活動プログラ

ムや運営手法を模して実施することとしました。実施後には、それぞれの年度内において研修会を開催し、評価・改善を行います。平成32年度には、本事業の成果をまとめ、県下の学校等に発信することを目指します。

2. 事業の進め方

(1) 対象校の選定

昨年度中に、本年度当所を利用する小学校の中からA小学校を選定し打診したところ、了承が得られました。A小学校は、5年生1クラス31名で、10月下旬に1泊2日で当所を利用する学校です。

(2) Q-Uの実施・分析について

Q-Uは、6月と宿泊体験学習の事前・事後の計3回実施しました。分析については、長崎大学大学院教育学研究科 内野成美准教授（以下、内野先生）に依頼しました。

(3) 対象校との打合せ

7月末、1学期に行ったQ-Uの検査結果のデータをもとに、A小学校の先生方とプログラム相談を行い、プログラムを作成しました。

11月には、事業後の学級での取り組みや事業の成果と課題、今後の事業の普及等について評価会を行いました。

(4) 当日の運営方法

基本、通常の宿泊体験学習と同じく、学校主体で進めてもらい、活動やふりかえりの指導を当所の担当職員1名が行いました。

また、2日間の様子は、県下の公立施設の職員にも見てもらい、事業終了後に評価会を行いました。

(5) 成果・課題の共有

次年度以降の公立施設での事業実施に向け、2月に県下の公立施設職員を集めた会議を開催し、内野先生によるQ-Uの分析結果と当所における成果・課題を共有しました。

II 試行事例の内容

1. 取組みの内容

A小学校5年生1クラス(31名)を対象に、10/26(木)～27(金)の1泊2日で実施しました。実施においては、A小学校がすすめる「仲間づくり」をテーマとした年間の取組みに、今回の宿泊体験学習を位置づけました。

また、取り組んだ試行事例の効果を測定するため、実施の前後1週間にQ-Uを実施し、学級集団の変容を検証・分析し効果を数値化しました。

2. 企画・運営のポイント

(1) 企画立案

1学期に行ったQ-Uの結果を踏まえ、7月末にプログラムの企画・立案を行いました。プログラムの企画・立案においては、クラスの様子や子供たちの対人関係、気になる児童等の情報を共有しながら、担任・教頭先生とプログラム相談を行いました。

Q-Uの結果によると、クラスの現状は集団としての一体感に欠け、子供同士の結びつきが弱いこと、学級内のルールの曖昧さや行動規範の低さなどが伺えました。

こうした実態への対応例として、児童同士がかかわる場面の設定や児童の行動目標を方向付けてルールづくりを行うことが挙げられます。そのため、今回の宿泊体験学習では、グループで協力できる場面や状況を作ることができる活動としてイニシアティブゲーム、オリエンテーリング、野外炊事を選択しました。

ただし、クラス全員で1つの目標を達成し、一体感が生まれるような場面も設定しようと、カプラ（ワンサイズの木製ブロックを用いた活動）を取り入れることとしました。

(2) 指導方法

運営面では、児童相互の理解を深め、自分たちで規範意識を高めていけるよう、グループ内での目標設定（「この活動では、これを頑張ろう」、「グループのために自分が頑張れることは何か」など）やふりかえり（「活動がうまくいくために必要なことは何だったか」、「グループのために自分ができたことやできなかったことは何か」など）を、それぞれの活動の前後に行うこととしました。

具体には、プロジェクトアドベンチャー*（以下、PA）にある「フルバリュー（お互いを最大限尊重するという約束）」の考え方を指導に活かしたり、目標設定やふりかえりを行う際に「ビーイング*」を活用したりすることとしました。

(3) 班編成

グループ編成は、クラスや児童の実態を最も把握している担任に一任しました。気になる児童は、グループ内での発言や行動、他の班員との関わりについて、特に留意し観察を行うこととしました。

(4) プログラム

1日目	2日目
9:30 入所式・オリエンテーション	6:30 起床
10:30 イニシアティブゲーム・・・①	7:15 朝のつどい
11:45 ふりかえり・・・②	7:30 朝食
12:00 昼食	9:00 野外炊事（焼きそば）・・・⑥
13:00 食材GET オリエンテーリング・・・③	12:30 ふりかえり・まとめ・・・⑦
16:20 スコア集計 ふりかえり（ビーイング作成）	13:00 退所式
17:15 夕食	13:30 退所
18:30 カプラ・・・④	
20:30 ふりかえり・1日のまとめ・・・⑤	
21:00 入浴	
22:30 就寝	

*プロジェクトアドベンチャー：アドベンチャーの特性である「自己との対峙、葛藤、自分自身に対する挑戦、仲間との協力、成功体験、達成感」などを生かし、人間が成長するための「気づき」を効果的に体験するための手法として、1971年にアメリカで開発されたもの。学校教育や社会教育、企業研修などの様々な場面で活用されている。

*ビーイング：体験を通して得られた気づき・学び（目標、規範等）を、模造紙等へ書き込み、メンバー間で共有する方法。

(5) 活動の様子



1日目 : ① イニシアティブゲーム

始める前に「居心地のいいグループとはどんなグループか？」について子供たちに意見を出させました。その後「そんなグループになるために大切なことは？」という質問を投げかけ、イニシアティブゲームを開始しました。

イニシアティブゲームは「パイプライン」と「アシッドドライバー」を行い、どのグループも協力して課題に取り組む姿が見られました。



1日目 : ② ふりかえり

イニシアティブゲームを終え、活動のふりかえりを行いました。各グループでビーイングを作成し、「居心地のいいグループになるために大切なこと」について、グループのためにできたこと、できなかったことやグループをより良くするためのルールなどについて話し合いを行いました。



1日目 : ③ 食材ゲット型オリエンテーリング

翌日に行う野外炊事の食材等を獲得するオリエンテーリングを行いました。翌日に行う野外炊事の食材をゲットするため、どのグループも協力し合い、意欲的に取り組んでいました。

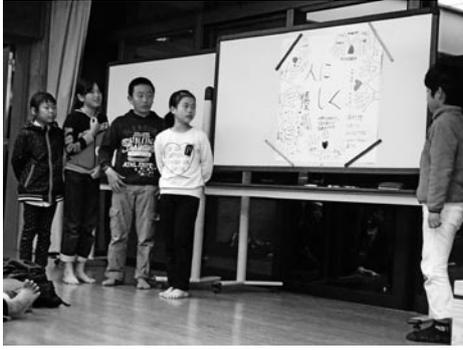
出発前にはビーイングを確認して目標の意識づけを、活動後はビーイングを囲んでのふりかえりを行いました。



1日目 : ④ カプラ

A小の教頭先生の指導でカプラを行いました。まずは一人でカプラを高く積む活動から、次に数人で積み方を工夫しながらより高く積む活動を行いました。その後、クラス全員で各々が積んだカプラを利用した街作りに、最後はクラス全員でナイアガラの滝作りにチャレンジし、見事完成させました。

子供たちは、協力して作り上げた達成感や満足感を十分に味わうことができ、一体感を得られたようでした。



1日目 : ⑤ ふりかえり・1日のまとめ

カプラの活動後、各グループでビーイングを囲み活動のふりかえりを行いました。ふりかえりでは、子供たちが少しずつ主体的に話し合うようになる様子や、グループの規範が作られていく様子が伺えました。

また、グループの枠を広げ「居心地のいいクラスになるために大切なこと」についても各グループで話し合いました。最後にビーイングに記したことを各グループで発表し合い、1日目の活動をふりかえるとともに各々が気づきを深めることができました。



2日目 : ⑥ 野外炊事（焼きそば）

安全指導の後、各グループでビーイングを囲み、活動のめあてを確認し合ってから野外炊事を開始しました。活動中、ビーイングに記した「役割分担」や「協力しあう」などの言葉を意識しながら活動する姿が見られました。また、食べ始めの時間、片付けの時間を事前に決めておくことで、時間を意識した行動が見られ、スムーズに活動を終えることができました。



2日目 : ⑦ ふりかえり・まとめ

まず、ビーイングを使って、野外炊事の活動のふりかえりを行いました。グループのために新たにできたことや新たな気づきも生まれるなど、グループの成長が感じられました。次に、「学校に戻って頑張ること」についてグループで意見を出し合い、ビーイングに書き入れました。最後に、全グループがビーイングを用いて発表し、学校で頑張ることをクラス全体で共有しました。

3. 成果と課題

(1) Q-Uの分析結果から

宿泊体験学習の前後1週間に実施したQ-Uの分析結果は以下のとおりです。

※図表中の1回目・宿泊前は1週間前，2回目・宿泊後は1週間後のデータ

1) 学校生活意欲尺度に関して

学校生活意欲尺度の結果は表1，図1のとおりです。友達との関係や学級の雰囲気という対人関係に関する項目は，宿泊体験学習前に比べ後の方が高くなっていました。しかし，明確な有意差は見られませんでした。(学級の雰囲気のみ15%水準で有意差あり)。

表1 学校生活意欲尺度の変化

	友達関係	学習意欲	学級の雰囲気
1回目	9.5	9.6	9.4
2回目	9.7	9.5	10.0

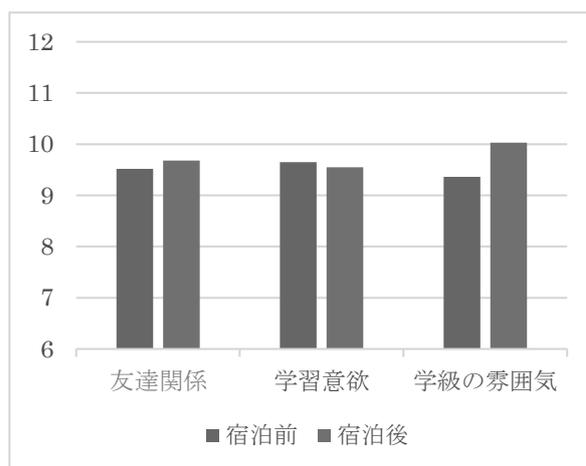


図1 学校生活意欲尺度の前後比較

2) 学級満足度尺度に関して

学級満足度尺度の結果は表2，図2-1,2,3のとおりです。承認得点は1回目と比較し2回目では0.6ポイント上がっていました。また，被侵害得点は1.3ポイント下がっていました。この結果から，学級満足度のプロットも全体に広がっていたものが，右寄りとなっていました。

表2 学級満足度尺度に関する宿泊前後での比較

	承認得点	被侵害得点
1回目	17.7	11.6
2回目	18.3	10.3

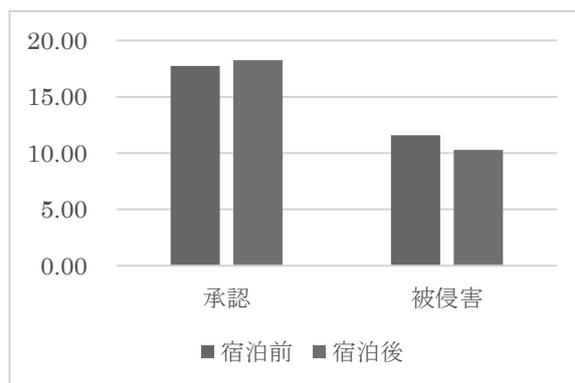


図2-1 学級生活満足度尺度の前後比較

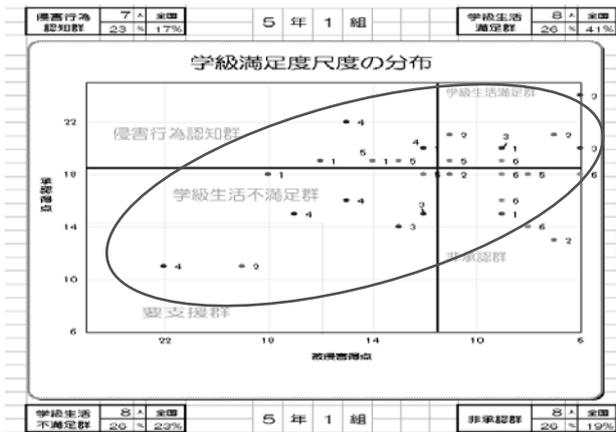


図2-2 宿泊前の学級満足度

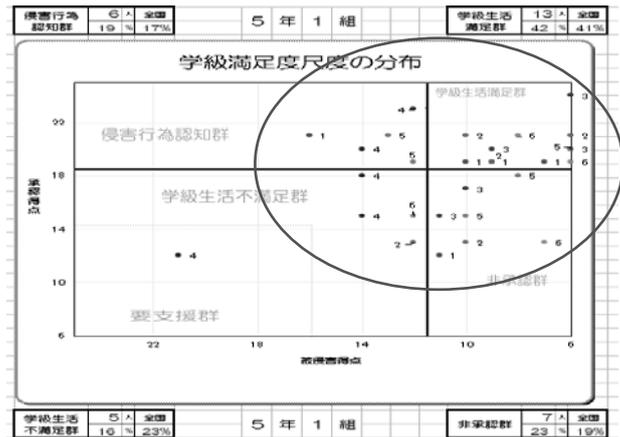


図2-3 宿泊後の学級満足度

3) 班別の比較

① 班ごとの友人関係の前後比較

1回目の調査では、友人関係に関する班別の平均は、1班から4班は全国平均よりやや低い結果でした。2回目では、3班と6班が平均より高くなり、特に3班は1.0ポイント平均が上がっていました。

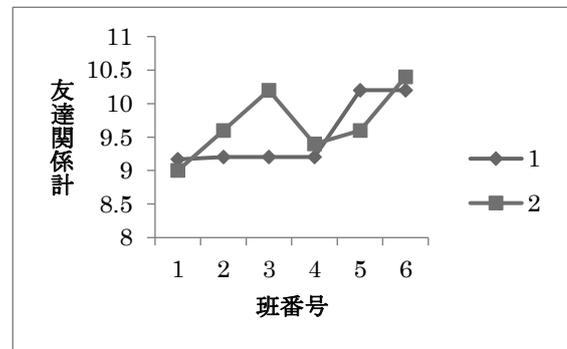


図3 友人関係の前後比較 (班別)

② 班ごとの学習意欲の前後比較

1回目の調査では、1・3・4・6班が全国平均より低い値となっていました。2回目の調査では、2班は変わらず全国平均より高く、3班と6班が1回目より上昇し、全国平均より高くなっていました。

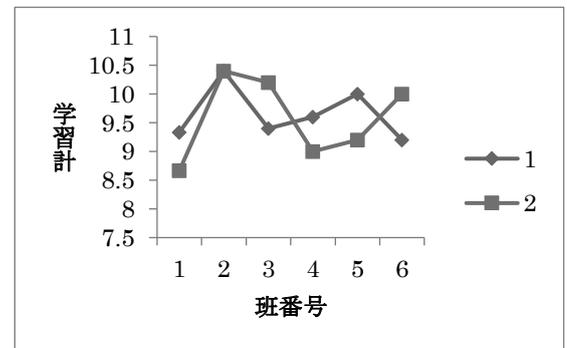


図4 学習意欲の前後比較 (班別)

③ 班ごとの学級の雰囲気の前後比較

1回目は、すべての班が全国平均より低い結果でしたが、2回目にはすべての班が上昇し、特に1班は全国平均より高くなっていました。また、最も平均の伸びがあったのは4班でした。

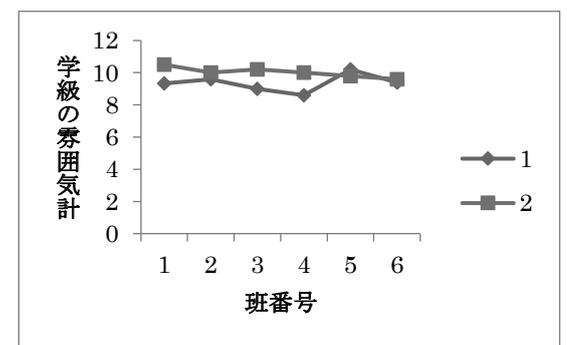


図5 学級の雰囲気の前後比較 (班別)

④ 班ごとの学校生活意欲の前後比較

1回目に比べ2回目では、多くの班で平均点が上昇していました。特に3班は3.0ポイント上昇していました。逆に平均が下がったのは5班で、1.8ポイント下がっていました。

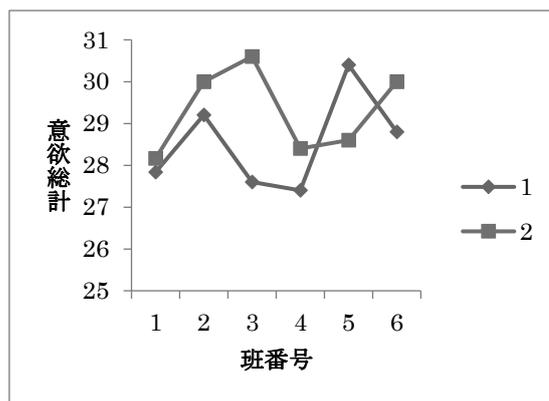


図6 学校生活意欲の前後比較（班別）

内野先生による総括

実施前に比べ実施後は、学級生活満足群が16ポイント増加し、被侵害得点が高い児童も減少しています。このことから、本事業のテーマである「仲間づくり」が単に友達づくりというだけでなく、学級という集団の中での仲間づくりを促進することにつながったと考えられます。

ただ、班ごとでは差が見られたことは課題であり、どのような集団でも一定の成果が得られるよう、更にプログラムを検討・試行して向上させていくことが今後の課題だと思われま

(2) 学校としての成果と課題

1) 成果

① 児童の変容について

本年度の5年生児童は、元気で明るい一方で、時に自己中心的な言動が見られることがありました。今回の活動の中で、自他の関わりについて考えながらプログラムを進めていくことを通していく中で、相手のことを考えた言動やグループ全体のことを配慮した言動が見られるようになりました。特に大事になるのは、到着してからのオリエンテーション及びふりかえりの時間帯ではないかと考えます。ここでしっかりと宿泊体験学習の目的を理解させ意識づけさせることが、後のプログラムでの子供たちの意識につながると考えます。

② 自己有用感の高まりについて

野外炊事やカプラの活動では、子供たちの自己有用感が高まった感想が見られました。これは、プログラムの順序を考え、最後にピークが来るように改善したことが大きかったように思われます。

③ 継続的な実施の成果

Q-Uを複数回実施した結果、学級全体の状況、日常から課題を感じている児童の状況及び本人の意識やその変化がよく理解できました。本校では、2学期の宿泊体験学習実施前後だけでなく、1学期にもテストを実施しています。1学期に実施した結果が、今回の宿泊体験学習のグループ分けや学級経営に大いに参考となりました。

2) 課題

① 身についた成果の低下

宿泊体験学習という非日常の中で高まった自他の意識が、時間が経つにつれて徐々に低下していくのは仕方がないと思います。しかし、何らかの手立てを打つことでその低下の仕方は変えられるのではないかと考えます。例えば、何かアイコンになるような旗・写真など、帰校してからの成果物の活用については課題を残していると考えます。

② 事前指導の在り方

今回は担任に任せて、現地に到着してからのプログラムでしたが、学校での事前指導の在り方についても改善の余地があるように感じます。グループ決めや準備のさせ方、目的の理解のさせ方についてさらに改善することで、当日のプログラムがさらに生きてくるものと考えます。

③ 成果の出なかった児童

事前のQ-Uの結果から、特に厳しい状況にあると思われる児童については、有意に改善の方向に向かったとは言い難い。より、ふりかえりの際の踏み込み方や事前事後の指導の在り方など、さらなるプログラムの充実が求められているものと考えています。次年度は、可能であれば学生ボランティアなどにも協力をいただいて、より個に応じ、沿った支援の在り方が必要ではないかと思えます。

(3) 当所としての成果と課題

1) 成果

① Q-Uを用いた情報共有について

プログラムの効果測定尺度として用いたQ-Uは、事前に学級全体の様子や各児童の状況を把握するうえでも効果的でした。具体的に数値として表れるため、普段よりも綿密なプログラム相談を実施することができました。

② 「仲間づくり」を軸とした企画・指導について

宿泊体験学習の目的を「仲間づくり」に特化したことで、活動プログラムや指導方法が明確になり、当所職員の関わりがスムーズになりました。また、指導においては、一貫してPAの手法を活用したことで、目的に沿った指導を行うことができたと考えます。

2) 課題

① Q-Uの結果について

前述のとおり、学級全体としては一定の成果が見られましたが、班ごとでは差が見られたため、プログラムや運営方法は改善の余地があると考えます。

② 複数学級での展開について

今回は、単学級の小学校をモデル校として実施しました。今後、複数学級の学校で同様の取り組みを行う場合、企画立案のポイントとなる1回目のQ-Uの結果にクラスごとに差が出ることは大いに想定されます。その際、クラスの実態に応じた企画立案や当日の指導・運営をどのように行うのかは、大きな検討課題になると思えます。

Ⅲ 今後の展開

平成 30・31 年度は、県下の公立施設において同様の取組を行い、当所はそのプログラムの企画立案や指導を支援する予定です。

こうして得た成果を長崎県教育委員会とともにまとめ、平成 32 年度には県下の各学校等に発信していく予定です。

また、当所においては、本事業の成果を着実に普及するため、宿泊体験学習の担当教員向けの研修会などを開催することを検討しています。

ながさき多良山系アドベンチャーキャンプ 2017

平成 29 年 8 月 20 日（日）～ 26 日（土）6 泊 7 日

【担当 古賀 佐智恵】



I 事業の概要

1. 背景

本機構の中期目標・中期計画（H28～H32 年度）における豊かな人間性を育む長期自然体験活動事業の推進では、「施設の特徴や立地条件、実績を活かし、非日常的な環境における自然体験活動を通して、青少年に自然の偉大さに気付かせ、協力することの大切さを学ばせるため、全ての地方施設において 1 週間以上の長期自然体験活動事業を中期目標期間中に延べ 60 事業実施する。実施の際は、プログラムの企画段階から、教育委員会、関係機関・団体、公立の青少年教育施設等と連携し、地域の特色や立地条件を活かしたプログラムとする。」と示しています。それを受け、民間の自然学校「とりかぶと自然学校」と連携し、企画・運営することとなったのが、本事業です。

※とりかぶと自然学校とは

多良山系「鳥甲（とりかぶと）岳」麓の里山フィールドにある民間の自然学校です。文部科学省の委嘱事業である「子ども長期自然体験村」の実施に合わせ、平成 11 年 4 月に自然体験活動、環境教育活動を行う任意団体として設立し、以後 17 年にわたり夏季の長期キャンプや冬季キャンプを実施しています。自然体験活動・環境教育の指導者育成も行っており、長崎大学全学サークル「NATURE Z」と連携して県内での自然体験活動・環境教育活動・環境保全活動にも参加しています。

2. 趣旨

小学校 3 年生から中学校 3 年生までの子供たちが、非日常的な環境における長期の自然体験活動を通して、友達と協力することの大切さに気付くとともに、自然に親しむ心や感謝の心をはぐくむ。また、挑戦的な活動を行うことで、自己の体力の向上を図る。

3. 参加者

(1) 対象・募集

小学校 3 年生～中学校 3 年生 30 名 ※とりかぶと自然学校で募集をかけた人数も含む

(2) 参加者 36 名

・内訳（学年及び男女）

（地域別）

	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
男	6	1	4	8	2	0	0	21
女	0	4	4	4	2	1	0	15
計	6	5	8	12	4	1	0	36

長崎	26
佐賀	4
福岡	3
兵庫	1
神奈川	1
沖縄	1
計	36

4. 事業の進め方

(1) 企画

①企画会議

とりかぶと自然学校のスタッフ、「NATURE Z」の学生ボランティアと共に、企画会議を行いました。2つの施設の良さを生かすため、キャンプの前半4日をとりかぶと自然学校で活動し、5日目を移動日、残りの2日を自然の家で活動するプログラムにすることにしました。この会議で、キャンプの目的や、参加者の目指す姿、スタッフの姿勢などを共有しました。また、このキャンプでは、参加者とスタッフがキャンプ初日に話し合っ、活動プログラムを決めることにしました。そうすることで、自分たちで決めたプログラムなので、より意欲的に取り組むことができると考えました。そのため、企画会議では、参加者が希望するプログラムはどんなものがあるかを出し合いました。また、ボランティアがやってみたい活動を紹介し合い、プログラムについてのイメージを膨らませていきました。そして、実際指導できるように、指導担当を決めて、それぞれに準備を進めました。

②事前研修・下見

お互いの施設を知るため、互いの施設に宿泊し、研修を行いました。野外炊事や、キャンプファイヤーなどのプログラムを実施したり、キャンプ5日目のとりかぶと自然学校から自然の家までの登山移動の下見を行ったりしました。登山の下見は、直前にも行い、安全性の確保に務めました。

事前研修では、長崎市消防署での救命救急講習や、ワールドカフェ形式のグループワーク、草木染の体験などを行いました。また、個人情報の取り扱いなどについても確認しました。その中で、スタッフ間の親睦も深めていきました。

5. 活動プログラム

日(曜日)	午前	午後	夜
20日(日)	始まりの会	アイスブレイク 野外炊事	キャンプの活動計画会議 横断幕づくり
21日(月)	登山Tシャツづくり (藍の生葉染)	沢登り 野外炊事	入浴
22日(火)	川遊び・魚つり等		きもだめし・花火
23日(水)	洗濯 そうめんながし	すいかわり	入浴 登山準備
24日(木)	チャレンジ登山 (とりかぶと自然学校～五ヶ原岳～自然の家) 入浴		野外炊事(パーティー) のメニュー決め
25日(金)	ドミノゲーム	ネイチャーゲーム 野外炊事(パーティー)	キャンプファイヤー
26日(土)	クラフトづくり 写真立て	終わりの会	

6. 活動の様子



アイスブレイク

各グループに分かれて、「人間知恵の輪」を行いました。参加者の距離がぐっと縮まりました。その後、用意した色紙の色にそっくりな葉を探すネイチャーゲームを行いました。それをしながら、とりかぶと自然学校の敷地内を散策し、どこに何があるのかも同時に確認していきました。



野外炊事

夕食は、基本的に毎日野外炊事でした。とりかぶと自然学校では、石を積み上げてかまどをつくって調理しました。よくキャンプに参加している参加者も多く、積極的に活動できました。このキャンプでは、メニューは教えず、材料と調味料だけ参加者に紹介し、何を作るかは参加者に考えさせて作るようにしました。どの班もしっかり話し合っ



キャンプの活動計画会議

キャンプでやりたいことを出し合っ



登山Tシャツづくり

Tシャツを藍の生葉染しました。雲仙の「アイアカネ工房」鈴木先生を講師としてお招きし、作業しました。生葉染は、摘み取った藍の葉を使用するので、はじめはTシャツも藍の葉の緑が混ざった色をしているのですが、作業を進めると鮮やかな青色に変化していきました。参加者はその様子に驚きの声をあげていました。



とりかぶと自然学校での活動
川遊び

2日目～4日目の活動は、とりかぶと自然学校近くにある川での川あそびや釣りなどがメインとなりました。ここでは、それぞれがやりたい活動を選択して活動しました。また、みんなで洗濯をしたり、掃除をしたりと身の回りのことを進めたりもしました。他にも、スイカわりやそうめん流しなども行いました。



チャレンジ登山

5日目は、チャレンジ登山です。全員で円陣を組み、掛け声をかけて出発しました。五ヶ原山頂が上りのゴールだったので、そこでハイタッチしたり、自然の家についた時は、事前に班ごとで制作したゴールテープで、ゴールを祝ったりしました。ここで、ぐっと班のきずなが深まりました。



自然の家での活動
キャンプファイヤー

6日目、7日目は自然の家での活動です。6日午前中あいにくの雨で、野外活動ができなかったのですが、屋内で協力して行うドミノをしました。他には、最後の豪華な野外炊事、キャンプファイヤー、写真立てづくりなど、キャンプの思い出を振り返るような活動をメインで行いました。

7. 成果と課題

(1) 成果

前年度実施した通年型の事業「アドベンチャーキャンプ」では、夏の1週間のキャンプの際、スタッフを十分に確保できませんでした。しかし本年度は、とりかぶと自然学校と共催で行ったことで、大学生のボランティアがたくさん集まり、班付のスタッフと運営のスタッフで十分な人数を確保することができました。そのため、参加者の安全が守られました。

参加者と共にキャンプの活動計画を立てたり、調理のメニューを考えたりしたことで、参加者が積極的に活動する様子が見られました。

小学校3年生から中学校3年生までと対象の年齢に幅を持たせたことで、年長の参加者が話し合いの進行を行ったり、班をまとめてくれたりしていました。はじめはホームシックになっていた子ども、周りの参加者に励まされながら、最後には笑顔いっぱいので終えることができたので、対象年齢を広げたことが良かったと思います。

また、プログラムの合間の時間を長めにとり、ゆったりとした時間設定で活動できました。そういった時間の会話や関わり合いを通して、参加者とスタッフの一体感が増してきました。そういった時間が取れるのは長期キャンプの良さだと思います。

(2) 課題

今回のキャンプは、参加者がしたい活動を個別に選択して行ったことも多かったので、班への帰属意識が芽生えるまでに時間がかかりました。毎日の活動で振り返りを行ったり、朝に班で集まって、今日の目標を班で共有したりすることで、班の意識も高まっていくと思うので、細かく振り返りの時間を行う必要があると思いました。それを行うために、大学生ボランティアとの事前下見や研修などでも、目標設定や振り返りを行うことが大事だと思いました。

また、参加者はよく活動していましたが、スタッフが大体の流れを考え、指導したものが多かったのも、もっと参加者が活動の企画に加わり、指導や時間配分なども年長の参加者がリーダーとなり、話し合っ決めて、参加者が役割分担して活動するプログラムがあってもよかったのではないかと思います。そうすることで、より自分たちでキャンプを作り上げた達成感もあったのではないかと考えます。他にも、参加者が保護者へ感謝の気持ちを伝える場を設定することも大切だと思いました。感謝の気持ちを持たせることも目的の一つだったので、そういった時間も作ればよかったと思います。そのため、最終日のプログラムや時間配分をリーダーで話し合っ決めてもらい、その中に、保護者への感謝の気持ちを伝える場を組み込むようにできればと思います。

オリンピックメダリスト エリック・ワイナイナ選手による ドリーム陸上教室

平成 30 年 2 月 10 日 (土) ~ 11 日 (日) 1 泊 2 日

【担当 渡部 孝一】



I 事業の概要

1. ねらい

- (1) オリンピックメダリストの指導により、個人の基本的な技術の習得を図る。
- (2) 夢を叶えることのすばらしさを伝える。
- (3) 参加者同士の交流を深める。
- (4) チームを引率する指導者の指導技術の向上を図る。

2. 趣 旨

本事業は、青少年教育のナショナルセンターである諫早自然の家が、多くの子供たちに、スポーツの素晴らしさを感じてほしいという思いから、青少年教育振興機構が推進している「体験の風をおこそう」運動の応援団の一人であり、アトランタオリンピック（銅メダル）、2000年シドニーオリンピック（銀メダル）と2大会連続でオリンピック男子マラソンにおいてメダルを獲得したエリック・ワイナイナ選手を招聘して陸上教室を企画しました。

今年は、インフルエンザの大流行や大寒波襲来と、ドリーム陸上教室が開催できるかどうか心配でしたが、当日は天候にも恵まれ無事に開催できました。

諫早市やその近隣地域はもとより、遠くは県北・県南地区や離島、そして県外から18チーム180名の小学校3年生から中学校2年生までの皆さんが参加しました。

1日目は、長崎県陸上競技協会強化副部長であり、今年度の愛媛国体における長崎県の陸上競技少年の部の監督を務めた鳥巢氏の室内トレーニングを行いました。

2日目は、ワイナイナ選手と湘南ベルマーレトライアスロンチームヘッドコーチの中島氏による陸上教室を行いました。普段の練習とは違った環境や練習内容、初めて受けるメダリストやプロコーチからの指導に、集まった子供たちは、集中してトレーニングに取り組んでいました。

この陸上教室を通して、陸上競技の技術力の向上はもとより、オリンピック2大会連続のメダリストという一流の選手とふれあい、体験を共有したことで、夢を叶えることのすばらしさを感じてもらえたのではないかと思います。

2日間と短く限られた時間ではありましたが、この陸上教室は、参加した子供たち、指導者、保護者の方々のこれからの生活にとって有意義な時間になったようでした。

3. 参加者

(1) 対象・募集

小学校4年生～中学校2年生 400名

(2) 参加者 180名 引率者 50名

・内訳（学年及び男女）

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	計
男	10	13	35	28	1	6	93
女	14	21	23	29	0	0	87
計	24	34	58	57	1	6	180

4. 活動プログラム

【1日目】

鳥巢氏による室内トレーニング

- ・基本トレーニングⅠ（腕ふり、肩甲骨周りのストレッチ、長座の姿勢）
- ・基本トレーニングⅡ

【2日目】

ワイナイナ選手・中島氏による陸上教室

- ・トークセッション
- ・動きづくり
- ・グループに分かれての実技指導
- ・エリックと走る
- ・ストレッチング
- ・質疑応答

5. 活動の様子



大きく思い切って腕を振ろう！



頭の位置がまったく動かないね！



正しい腕ふりを意識して！

鳥巢氏による室内トレーニング

長崎県陸上競技協会強化副部長の鳥巢氏から、陸上競技における基本トレーニングについて指導がありました。基本トレーニングの重要性についてわかりやすく的確に解説してくださいました。

「桐生選手も毎日基本の腕ふりをしている」「正しい腕ふりが出来たら必ず速く走れる」という話を子供たちは真剣に聞いていました。その後、実際に腕ふりの仕方や肩甲骨周りを緩めるストレッチをしました。

次に、「正しい歩行と腿上げのポイント」について指導をしてもらいました。

最後に、この基本を家でも毎日継続して行い、無意識にできるようになるまで頑張してほしいという話で1日目の室内トレーニングは終了しました。

ワイナイナ選手・中島氏による陸上教室

2日目は、トランスコスモスタジアム長崎での開催となりました。初めにワイナイナ選手の小・中学校の頃の話やオリンピックのこの話を湘南ベルマーレトライアスロンチームヘッドコーチの中島氏がMCとなってわかりやすく話してくれました。

子供たちは、目標をもって日々の練習に取り組むことや、最後まであきらめない姿勢の大切さを学びました。

次に、ワイナイナ選手がみんなの前で走り、速く走れる選手のメカニズムや前日に鳥巢氏が話してくれた腕ふりや歩行の姿勢、体幹の重要性を確認しました。



肩甲骨の使い方を知ろう！

グループに分かれての実技指導
中島氏とワイナイナ選手の2つのグループに分かれて実技指導を行いました。

中島氏のグループは体感トレーニングを行いました。正しい肩甲骨の使い方、正しい腰の入れ方などを手押し車やおんぶをしながら学びました。

ワイナイナ選手のグループは正しい腕ふりを確認した後に、ワイナイナ選手と一緒に走りながら指導してもらいました。



ワイナイナ選手と走ろう！

ワイナイナ選手とのランニング
参加者全員でワイナイナ選手とトラックで10分間走をしました。周回遅れになる選手もたくさんいましたが、ワイナイナ選手に声をかけられながら走りました。



参加者全員で記念撮影

閉会式
全員でストレッチをした後に、ワイナイナ選手への質疑応答がありました。日本に来たきっかけや早く走るためのコツ、食事で気をつけていることなど、参加者からのたくさんの質問に一つ一つ丁寧に答えてくれました。
最後に参加者全員で記念写真を撮って陸上教室は終了しました。
参加者だけでなく指導者や保護者の方も多く参加してくれて、有意義な陸上教室になりました。

6. 参加者の声（アンケートから）

（1）よかったという声

- ・基本の大切さを改めて教えていただけました。
- ・ワイナイナ選手と一緒に走れて良かったです。
- ・有名な選手の方、講師の方々に直接指導していただけて、子供たちもこれから夢と希望をもって練習に励んでくれることと思います。
- ・とても分かりやすい内容を、具体的に実演を交えながら行っていただき、今後の練習に取り入れていきたいと思いました。
- ・オリンピック選手とふれ合え、子供たちの目の輝きが違った。一緒に走れて良かった。
- ・生き生きとした表情で取り組む様子を見て、普段の指導では味わわせることができない貴重な体験になりました。
- ・ほかのクラブの子と交流できていい刺激になりました。
- ・離島からも参加しやすい時間でした。

（2）要望・希望の声

- ・初日にもう少し実技指導の時間があつたほうが良かった。もっと長くてもよいと思った。
- ・お昼からの教室で、夕方から夜はもう少しゆっくりできるといいなと思いました。

ボランティア自主企画事業

「冬の森冒険隊 ～新しい自分を探すチャレンジの旅～」

平成 29 年 12 月 23 日 (土) ～ 24 日 (日) 1 泊 2 日【担当 園部 翔】



I 事業の概要

1. 事業の背景と目的

国立青少年教育振興機構（以下、機構）の中期計画には、「ボランティアの養成・研修の推進」という項目があり、青少年のボランティア活動は、青少年の自立や健全育成，社会参加を促進する上で重要な役割を果たすため，教育事業の運営サポートや研修支援等に携わるボランティアの養成・研修事業を全ての施設で実施し，ボランティアコーディネーターは，ボランティア自身が主体的に事業の企画や運営を行えるよう活動を支援すると明記されています。

2. 企画の流れ

①ボランティア
プログラム
体験会の実施

○昨年度，自主企画事業を実施した際に，大学4年生が主で構成されていました。参加できなかったボランティアから「自分たちが諫早自然の家のプログラムを体験していない状態で，企画・運営する自信がない」と聞いたため，これを回避すべく今年度はボランティアのみで，自分たちが体験したいプログラムを自分たちで計画する体験会を自主企画事業が始まる前に3度実施しました。

②企画研修

○「企画について知る」，「企画委員のメンバーを知る」ことを目的に研修を実施しました。
○目的や対象，募集人数などを決定するために，企画委員のスケジュールを確認し，なるべく顔を合わせて会議を行えるよう，会場や時間の設定を行いました。

③活動詳細案の
決定

○運営時に，当日参加してくれるボランティアの混乱を防ぐために，活動の詳細が当初の目的を達成するための手段になっているかの確認を綿密に行い，細案を作成しました。

④事前踏査

○計画したプログラムが円滑に進むのかを確認するために，借用物品保管場所，指導の練習，時間配分の確認を行いました。指導練習の際には，個人の携帯を使って指導の様子を撮影し，ふりかえりを行いました。
○事前踏査で気付いたことをもとに，活動詳細案の見直しを行った。

Ⅱ 事業の企画と運営

1. 組織体制

(1) 実行委員会9名（男性2名，女性7名）

	高校生	大学1年生	大学2年生	大学4年生	社会人	合計
男性			1名		1名	2名
女性	1名	2名		4名		7名
合計	1名	2名	1名	4名	1名	9名

(2) 企画

企画の流れ②の段階で，企画委員の統率を図り，企画を円滑に進めるために「隊長，副隊長，広報部隊，活動部隊，会計部隊」と企画時における役割分担を行いました。

(3) 運営

緊急時にボランティア及び参加する子供たちの混乱を防ぐこと，企画委員の責任及び仕事の均等化を図るために「インストラクター，活動別インストラクター，グループリーダー」と運営時における役割分担を行いました。

2. ボランティアが自主企画した事業の概要

(1) 趣旨

多良山系の大自然の中で，仲間とともにテント泊やオリエンテーリング等の体験活動に挑戦することを通して，チャレンジする気持ちや自尊感情を育むとともに，自分自身と向き合う機会とする。

(2) 参加者

1) 対象・募集

小学校3～4年生 32名

2) 参加者 46名（男性23名，女性23名）

	3年生	4年生	合計
男性	10名	13名	23名
女性	9名	14名	23名
合計	19名	27名	46名

(3) 会場

国立諫早青少年自然の家 キャンプ村

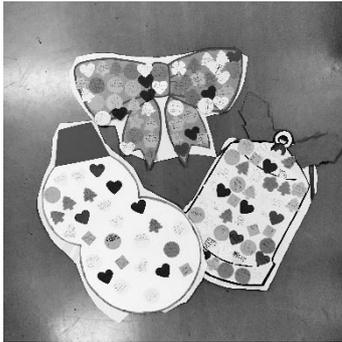
3. 事業の様子

(1) 実施プログラム

日	午前	午後	夜
1 日 目	10:30 参加者受付 11:00 はじまりの会 11:15 仲良くなるゲーム	12:00 昼食（レストラン） 13:30 キャンプ村へ移動 14:00 テント設営 16:00 野外炊事	20:00 チャレンジタイム 21:30 ふりかえり 22:00 就寝
2 日 目	7:30 朝食 9:00 オリエンテーリング 11:30 テント撤去	12:00 昼食（幕の内弁当） 13:00 ふりかえり 14:30 おわりの会 15:00 解散	

4. 活動の様子

活動	ねらい	内容
①仲良くなるゲーム 	□子供たちの緊張をときほぐす。 □職員が参加する子供たちの様子を把握する。	①自己紹介リレー ②前後左右
②イニシアティブゲーム 	□班で課題解決に取り組むことを通して、「友達と活動する楽しさ」を体感する。	①テント設営 ②新聞折り ③人間知恵の輪
③野外炊事（豚汁づくり） 	□1人で達成するには、困難なプログラムを班全員で達成することを通して、「友達がいる安心」を体感する。	①役割分担を行い、食事の準備を行う。 ②食事 ③冷たいキャンプ村の水で食器洗浄など使用したものの片付けを行う。

<p>④ふりかえり</p> 	<p>□キャンプ 1 日目にできるようになったことをふりかえる中で、「できた！」の体験を可視化することを通して、自尊感情を育む一助とする。</p>	<p>①自分のできるようになったことを各自のしおりに記す。 ②班の友達の凄いや、してもらって嬉しかったことを班の飾りに記す。 ③今日自分ができるようになったことを班の友達の前で発表する。 ④班の友達が書いてくれたことや発表を聞き、自分ができるようになったことがあれば記す。</p>
<p>⑤オリエンテーリング</p> 	<p>□班を分けて活動しなければ、達成できない課題にチャレンジすることを通して、チャレンジすることの楽しさを体感する。</p>	<p>①オリエンテーリングマップをもとに、チェックポイントにあるキーワードを集める。 ②制限時間内に自然の家に到着し、見つけたキーワードを並び替えて「ななころびやおき」の四字熟語にすることができたら課題達成とする。</p>
<p>⑥発表会</p> 	<p>□発表会の準備を行うことを通して、キャンプ全体の体験をふりかえる。</p>	<p>①各班で全体のふりかえり ②発表会 ③発表が終わった班からキャンプのツリーに各班のよいところを飾り付ける。 ④キャンプに参加した全員で製作したツリーの前で集合写真を撮影する。</p>

5. 評価

(1) ボランティア

1) アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

2) アンケート記述

- ・3か月の準備期間では、今回参加してくれた子供たちのことを想像して、ずっとプログラムなど考えてきました。だからこそ、子供たちを出迎えた時に「やっと会えた！」という気持ちの方が強かったです。
- ・ボランティア自主企画事業を通して、このメンバーとの出会いや関わりの中で、「人との出会いは財産」だと心から実感しました。
- ・「チームを信じるよさ」を教えてくれてありがとうございます。たくさん支え、刺激をくれ、笑わせてくれて、たくさんありがとうございます。
- ・企画がこんなにも大変だとは思っていなかった。自分の中のコンプレックスとの戦いや、劣等感に苦しむこともありましたが、自分以外のメンバーが頑張っている様子を見て、私も勇気をもらえました。皆と一緒に成長することができてよかったです。自主企画事業がこんなに楽しくて、自分の中の宝物になるとは思っていませんでした。
- ・中学時に人と話すことが怖かった経験があったが、企画委員のメンバーと出会い、みんなが話を聞こうと待ってくれることが本当に嬉しかった。このメンバーとこれからもつながってほしい。いつか辛いことがあっても、みんなと乗り越えた3か月を思い出して元気をもらおうと思う。
- ・一生懸命にやればやるほど、達成感を味わうことができることを改めて感じる事ができた。
- ・計画した時間通りに進めていくことは、とても難しいことが分かった。
- ・企画を進めていく中で、メンバーの凄さが分かってきて「自分はここにいていいのだろうか」と考えてしまい、職員に相談した時に「自分自身がやりとげたいのか」と聞かれ、「このメンバーとやりとげる」という強い気持ちになり、キャンプ当日を迎えることができました。迷った際には、自分の意志が大切ということを学びました。
- ・会議や事前踏査など、寝食を共にし続けていくうちに、自主企画をより良いものにしたという気持ちが強くなっていきました。自分の力不足を感じた時に、メンバーが励ましてくれたことで「自分はこのメンバーにいていい」と感じ、自信がつかしました。
- ・一生忘れられない経験になりました。企画していたとおりに、班の子供たちが「できた」の体験を積み重ねて変化していきだけでなく、自分の班のメンバー以外の手伝いを自ら行う子供たちに胸が熱くなりました。これも3か月間企画委員のメンバー全員でプログラムを練り続けながら、本気で向き合ってきたからこそだと思います。不安や悩みを考えながら、反省を繰り返す度に、仲間とともに高まっていくことが、子供だけでなく自分を育てる上で大切なのだと実感しました。

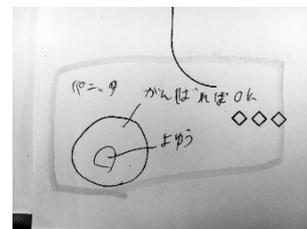
(2) 参加者

1) アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
96%	4%	0%	0%

2) アンケート記述

- ・これからもよゆうの丸をどんどん広げていきたいです。
- ・これからは、苦手なことから避けて失敗してもいいから、チャレンジして、よゆうの輪を広げていきたいです。
- ・自分にはこんなにもできることに気付いた。
- ・学校ではいつも同じ友達とばかり遊んでいたけれど、知らない人と友達になることは楽しいことが分かった。
- ・キャンプに来て自分には、こんなにすごい力があることに気付いた。これからも自然の家に来ていろいろなチャレンジをしていきたい。
- ・「もうむり」と思ってもあきらめずに頑張ることを学べた。これからも続けたい。
- ・なぜか初めて会った友達が、兄弟みたいになっていて嬉しくなった。



6. 成果と課題

(1) 成果

- ①ボランティアのアンケート結果にもあるように、ボランティアにとって心に残る体験の機会を提供するとともに、ボランティアの成長につなげることができたと考えます。
- ②昨年度の反省を活かし、ボランティアプログラム体験会を実施したことにより、年齢層の広いメンバーで企画委員会を構成することができました。このことにより、来年度は経験を積んだメンバーが自主企画を担当することができると考えます。
- ③参加者のアンケート結果にもあるように、挑戦が自分の成長につながることやあきらめずに頑張ることの大切さを気付く機会を提供することができたと考えます。
- ④参加者のアンケート結果にもあるように、自然体験には、日常生活では気づくことのできない自分に出会えることやなぜか兄弟みたいになっているといった自然体験の魅力を体感する機会を提供できたと考えます。
- ⑤ボランティアがキャンプ終了から約2か月後に、諫早のボランティアの輪を広げるためのキャンプを実施する予定を立てました。

(2) 課題

ボランティア自主企画実行委員会メンバーが、企画開始から固定メンバーで3か月間実施した。体験活動の機会をより広く提供するためにも、企画開始に参加できなかったメンバーも途中参加できるような配慮を行う必要があります。

利用者へのサービス面上のために

○ピッツァ窯購入

1) 背景

ここ数年、ファミリーや幼稚園、保育園の小規模団体での利用が増加しており、小規模団体のニーズに対応した新しい野外活動プログラムの提案、提供が必要となっていました。

2) 検討・導入

野外炊事は自然の家でも人気のある活動プログラムですが、乳幼児連れのファミリーや車椅子利用者及び介助者には、野外炊事場までの移動や薪を使って火をおこす作業は大変なことであり、行いたくても簡単にできる活動ではありませんでした。

そこで誰もが手軽に野外炊事（ピザづくり）を楽しめるようピッツァ窯を導入することになりました。

3) 費用

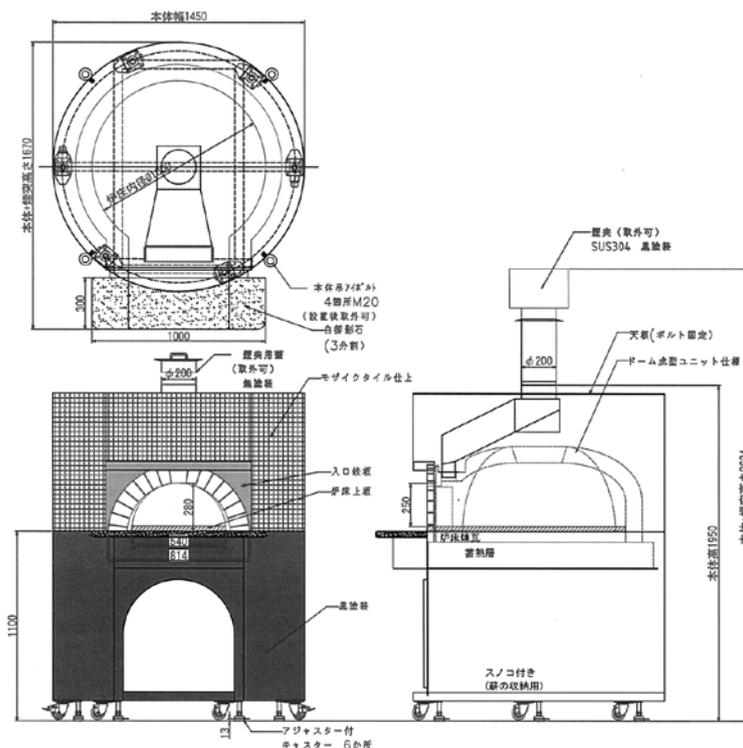
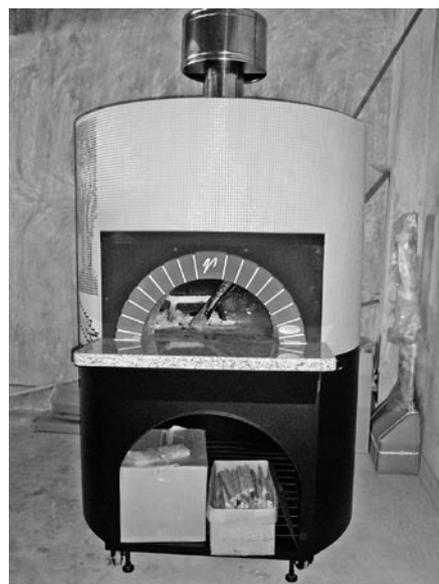
「教育機能向上のための教育設備の整備」
により購入

4) 効果

第2駐車場に屋根付きの広場を整備し、ピッツァ窯と関連設備を設置します。

ピッツァ窯の導入により、ファミリーや幼児向けプログラムの充実を図ることができ、雨天時活動の選択肢も広がりました。

また、ピッツァ窯の設置場所は車椅子での利用も容易であり、手軽に本格ピッツァを味わうことができるため、多くの利用が見込まれ、利用者の満足度向上に期待が持てます。



Ⅱ 事業・管理運営の記録

1. 平成 29 年度教育事業実績

(1) 普及啓発事業（体験活動や基本的な生活習慣等の重要性に関する普及啓発）

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	タラッキーキャンプ	①5.20(土)～5.21(日) (1泊2日) ②6.10(土)～6.11(日) (1泊2日) ③7.15(土)～7.16(日) (1泊2日) ④10.21(土)～10.22(日) (1泊2日) ⑤11.18(土)～11.19(日) (1泊2日) ⑥12.8(金)～12.10(日) (2泊3日) ⑦3.10(土)～3.11(日) (1泊2日)	小学校1年生 ～6年生 ①30名 ②26名 ③29名 ④48名 ⑤46名 ⑥23名 ⑦32名	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。	・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・登山
2	アドベンチャーキャンプ	8.20(日)～8.26(土) (6泊7日)	小学校5年生 ～6年生 36名	長期の自然体験活動を通して、たくましく生きる力を育む。	・登山 ・沢登り
3	ファミリーキャンプ	①6.23(土)～6.24(日) (1泊2日) ②10.14(土)～10.15(日) (1泊2日) ③12.16(土)～12.17(日) (1泊2日) ④1.27(土)～1.28(日) (1泊2日)	小学生や未 就学児のい る家族 ①64名 ②52名 ③59名 ④94名	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。	・野遊び ・季節の体験活動
4	通学キャンプ	①11.1(水)～11.3(金) (2泊3日) ②11.9(木)～11.11(土) (2泊3日) ③11.16(木)～11.18(土) (2泊3日) ④11.30(木)～12.2(土) (2泊3日)	小学校3年生 ～4年生 ①79名 ②66名 ③70名 ④83名	自然の家で共同生活を送りながら学校に通学する活動を通して、「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身につける契機とするとともに、メディア依存対策の一環とする。	・外遊び ・クラフト活動
5	仲間とつながる力をつけるキャンプ	2.10(土)～2.12(日) (2泊3日)	小学校5年生 ～6年生 22名	「いじめられない・いじめを許さない・いじめない」という意識・態度を培う。	・アサーティブコミュニケーションを用いたプログラム
6	ドリーム教室・陸上編	2.10(土)～2.11(日) (1泊2日)	陸上競技部に所属している小中学生 201名	エリック・ワイナイナ選手を招聘し、講習会・実技指導を通して、技術力の向上と参加者同士の交流を深める。	・講習会 ・合同練習
7	ドリーム教室・ソフトボール編	1.20(土)～1.21(日) (1泊2日)	中学校ソフトボールチーム 285名	ソフトボールの実業団選手による講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者同士の交流を図る。	・講習会 ・試合
8	ドリーム教室・ラグビー編	2.3(土)～2.4(日) (1泊2日)	小学校ラグビーチーム ラグビーに興味がある小学生 195名	ラグビー選手の指導による、個人の基本的な技術の習得やチーム力の向上を図るとともに、参加者同士の交流を深める。	・講習会 ・試合

9	みんなで山を さるこう会	①5.15(月)～5.16(火) (1泊2日) ②7.18(火)～7.19(水) (1泊2日) ③9.12(火)～9.13(水) (1泊2日) ④10.10(火)～10.11(水) (1泊2日) ⑤11.13(月)～11.14(火) (1泊2日) ⑥12.12(火)～12.13(水) (1泊2日) ⑦1.22(月)～1.23(火) (1泊2日) ⑧3.13(火)～3.14(水) (1泊2日)	登山が できる 方 各15名 ①23名 ②15名 ③19名 ④15名 ⑤19名 ⑥18名 ⑦14名 ⑧18名	美しい自然の残る多良山系の登山を通して、自然に親しむとともに、参加者同士の親睦を深め、生きがいくりと健康づくりの一助とする。	・登山 ・交流プログラム
---	-----------------	--	---	--	-----------------

(2) 地域力向上事業 (地域の教育力を高める事業)

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	【看板事業】 中1ギャップに対応したプログラム開発事業	①2.8(木)～2.10(土) (2泊3日) ②2.15(木)～2.17(土) (2泊3日) ③2.22(木)～2.24(土) (2泊3日) ④3.1(木)～3.3(土) (2泊3日)	小学校6年生 ①27名 ②13名 ③23名 ④16名	青少年を取り巻く今日的課題である「中1ギャップ」に対応するため、関係機関と連携して、モデルプログラムを開発・普及する。	・プログラム及び成果検証方法の検討会(年数回) ・モデルプログラム試行(年4回)
2	生活・自立支援 キャンプⅠ	①10.6(金)～10.9(月) (3泊4日) ②1.5(金)～1.7(日) (2泊3日)	ひとり親家庭 の児童 ①9名 ②20名	早寝早起き朝ごはんや家庭学習など、基本的な生活習慣を身につけるとともに、自尊感情を高める。	・調理実習 ・本の読み聞かせ ・クラフト活動
3	生活・自立支援 キャンプⅡ	①8.12(土)～8.14(月) (2泊3日) ②8.18(金)～8.19(土) (1泊2日)	児童養護施設 の青少年 ①16名 ②16名	自然体験や作業体験等を通して、自尊感情を高めるとともに、体力・基本的な生活習慣・調理スキルの向上を図る。	・沢登り ・農業もしくは林業体験 ・調理実習
4	公立青少年教育施設とのプログラム 共同開発事業	モデルプログラム 10.26(木)～10.27(金)	小学5年生 31名	公立青少年教育施設の教育力向上を目的に、公立青少年教育施設と連携して、青少年の今日的課題に対応したプログラムを開発する。	・プログラム検討会(年数回) ・モデルプログラム試行(年1回)

(3) 国際交流事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	【文部科学省委託事業】 日独勤労青年交流事業	11.22(水)～11.27(月) (5泊6日)	ドイツの勤労 青年 23名	ドイツの勤労青年が、「若者の社会参画」のテーマの下、日本の企業や団体等を訪問・交流し、日本とドイツの勤労青年の交流を推進することで、高い国際感覚を備えた青年を育成する。	・テーマに沿った企業訪問と協議 ・ホームステイ ・長崎平和学習や日本文化体験

(4) 指導者養成事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	NEA ラインストラクター 養成事業	11.2(木)～11.5(日) (3泊4日)	青少年教育・ 学校教育関係者、大学生 7名	専門的な知識と技術をもって、自然体験活動の普及や振興に貢献する自然体験活動指導者を養成する。	・体験活動の意義 ・体験活動の指導法 ・指導法の実際
2	自然体験活動 ボランティア養成研修	6.3(土)～6.4(日) (1泊2日)	大学生・社会人 47名	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。	・ボランティア活動の意味 ・自然体験活動スキル ・応急処置スキル
3	ボランティア 自主企画事業	12.23(土)～12.24(日) (1泊2日)	小学生 46名	ボランティア自身が主体的に企画・実施する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実に図り、ボランティアを育成する。	・ボランティア活動 ・自然体験
4	教員免許状更新講習	①5.28(日) ②8.17(木) ③10.7(土)	受講対象者 ①30名 ②29名 ③29名	学級づくりに活かせる体験活動の指導法を理解し、その習得を図る。	・体験活動の意義 ・体験活動の指導法 ・指導法の実際
5	プロジェクト アドベンチャー研修会	2.27(火)～3.1(木) (2泊3日)	施設職員・ 大学生 16名	体験活動を通じてチーム力・コミュニケーション力を育む冒険教育プログラムの効果を体感し、理念を理解するとともに、教育手法を習得する。	・冒険教育の理念 ・冒険教育の手法 ・冒険教育の内容

(5) 長崎・地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	子ども体験活動 フェスティバル	10.28(土)～10.29(日) (1泊2日)	親子、 学童クラブ 2,828名	長崎県及び市町教育委員会並びに青少年団体やNPO法人等の民間団体・グループと連携し、様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感するとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。 また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、長崎県下各市町を中心に、地域における体験活動の定着・発展を推進する。	・クラフト活動 ・野外体験活動
2	バスケットボール 大会(男子・女子)	①男子2.17(土)～2.18(日) (1泊2日) ②女子2.24(土)～2.25(日) (1泊2日)	中学生のバ スケットボ ールチーム ①160名 ②141名	バスケットボールコーチによる講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者間の交流を図る。	・講習会 ・試合
3	ドッジボール大会	1.13(土)～1.14(日) (1泊2日)	小学生の ドッジボ ールチ ーム 272名	試合や交流会及び宿泊を共にすることで、技術の向上と県内外のチームや個人の交流を図る。	・試合 ・交流会

(6) 特別研修支援事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	長崎大学教育学部 野外体験リーダー 研修	①4.29(土)～4.30(日) (1泊2日) ②5.6(土)～5.7(日) (1泊2日) ※日吉開催	長崎大学教育 学部2年生 ①131名	小・中学校の宿泊体験学習 において補助指導を行う学生 が、自然体験活動プログラ ムの体験を通して、指導 者としての心構えや必要な 知識・技術を習得する。	・自然体験活動プログラ ムの体験 ・体験のふりかえり
2	諫早市少年センター	①6.6(火)～6.7(水) (1泊2日) ②9.5(火) ③10.3(金)～10.5(日) (2泊3日) ④11.14(木) ⑤12.12(金)	適応指導教 室に通う児 童及び生徒 ①9名 ②14名 ③16名 ④17名 ⑤20名	諫早市少年センターが主催 する「適応指導教室」の企 画や運営、指導に参画し、 参加児童生徒の自己肯定感 や人間関係を構築する力な ど、学校生活に必要な資 質・能力をはぐくむ。	・沢登りやハイキングな どの自然体験活動 ・コミュニケーション力 を育む体験活動
3	大牟田市適応指導 教室	10.4(水)～10.6(金)	適応指導教 室に通う児 童及び生徒 12名	大牟田市が主催する「適 応指導教室」の企画や運営、 指導に参画し、参加児童生 徒の自己肯定感や人間関係 を構築する力など、学校生 活に必要な資質・能力をは ぐくむ。	・沢登りやハイキング等 の自然体験活動 ・コミュニケーション力 を育む体験活動

(7) 出前事業

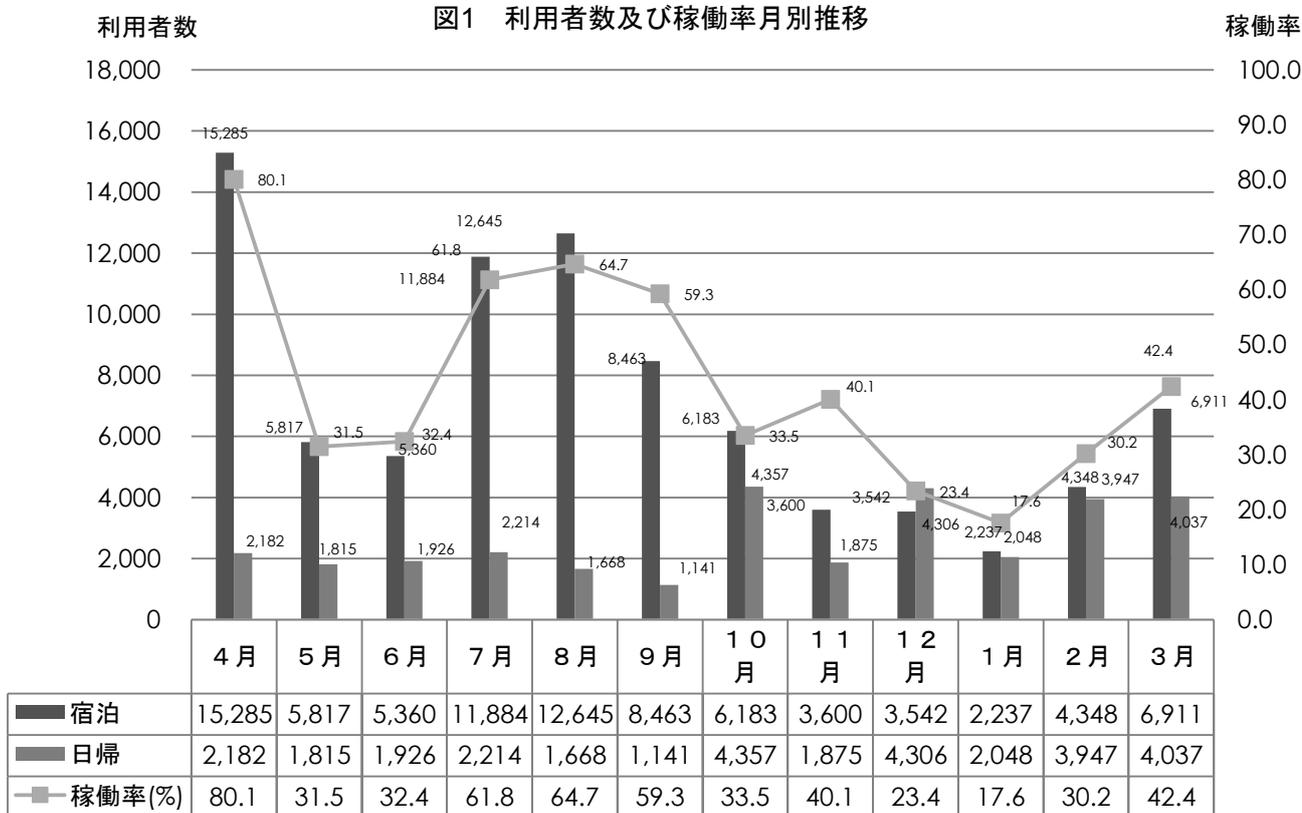
	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	諫早市通学合宿	①9.28(木)～9.30(土) ②10.9(月)～10.14(土) ③10.10(火)～10.14(土)	小学生 ①28名 ②33名 ③25名	当所職員が、諫早市内の通学 合宿に指導者として参画する ことで、地域における体験活 動の推進を図る。	・共同生活体験
2	長崎県教育センター	5.10(水)	教育センター の研修員、 指導主事 21名	新任者研修でプロジェクト アドベンチャーの指導を行う 研修員に対し、指導法のレク チャーを行う。	・プロジェクトアドベン チャーの体験

2. 平成29年度利用実績

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	17,467	7,632	7,286	14,098	14,313	9,604	10,540	5,475	7,848	4,285	8,295	10,948	117,791
研修支援	16,160	6,854	5,725	13,200	13,532	9,524	6,729	3,339	6,053	1,036	3,302	9,051	94,505
宿泊	15,285	5,709	5,072	11,789	12,198	8,427	5,287	2,589	3,028	715	2,977	6,469	79,545
日帰	875	1,145	653	1,411	1,334	1,097	1,442	750	3,025	321	325	2,582	14,960
教育事業	1,307	778	1,561	898	781	80	3,811	2,136	1,795	3,249	4,993	1,897	23,286
宿泊	0	108	288	95	447	36	896	1,011	514	1,522	1,371	442	6,730
日帰	1,307	670	1,273	803	334	44	2,915	1,125	1,281	1,727	3,622	1,455	16,556
宿泊	15,285	5,817	5,360	11,884	12,645	8,463	6,183	3,600	3,542	2,237	4,348	6,911	86,275
日帰	2,182	1,815	1,926	2,214	1,668	1,141	4,357	1,875	4,306	2,048	3,947	4,037	31,516
利用団体数	124	169	163	221	245	158	134	101	86	49	69	97	1,616
研修支援	120	159	143	211	235	156	122	88	74	38	48	84	1,478
宿泊	57	60	51	109	113	83	57	48	39	15	22	50	704
日帰	63	99	92	102	122	73	65	40	35	23	26	34	774
教育事業	4	10	20	10	10	2	12	13	12	11	21	13	138
宿泊	0	3	6	4	7	1	10	10	5	8	13	9	76
日帰	4	7	14	6	3	1	2	3	7	3	8	4	62
宿泊	57	63	57	113	120	84	67	58	44	23	35	59	780
日帰	67	106	106	108	125	74	67	43	42	26	34	38	836
稼働率(%)	80.1	31.5	32.4	61.8	64.7	59.3	33.5	40.1	23.4	17.6	30.2	42.4	52.5

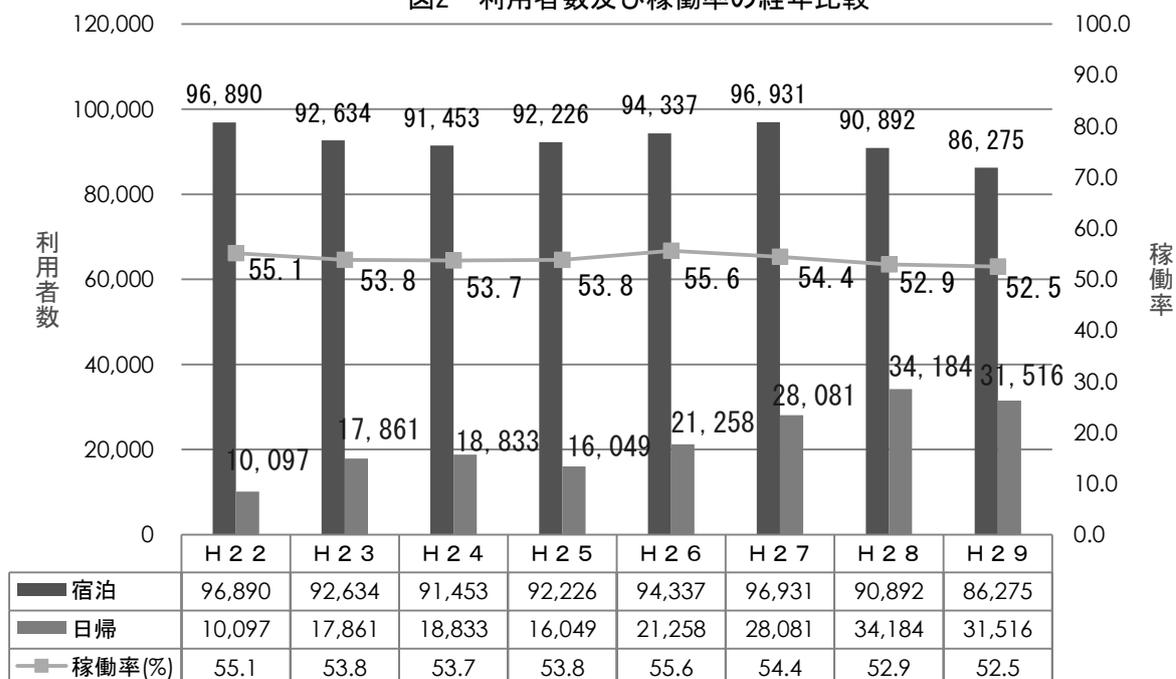
図1 利用者数及び稼働率月別推移



(2) 平成22年度から平成29年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9
利用者数	106,987	110,495	110,286	108,275	115,595	125,012	125,076	117,791
研修支援	101,154	95,499	94,112	101,742	103,336	107,022	100,109	94,505
宿泊	94,922	88,461	86,926	89,276	90,810	92,643	84,729	79,545
日帰	6,232	7,038	7,186	12,466	12,526	14,379	15,380	14,960
教育事業	5,833	14,996	16,174	6,533	12,259	17,990	24,967	23,286
宿泊	1,968	4,173	4,527	2,950	3,527	4,288	6,163	6,730
日帰	3,865	10,823	11,647	3,583	8,732	13,702	18,804	16,556
宿泊	96,890	92,634	91,453	92,226	94,337	96,931	90,892	86,275
日帰	10,097	17,861	18,833	16,049	21,258	28,081	34,184	31,516
利用団体数	1,230	1,266	1,181	1,301	1,404	1,556	1,595	1,616
研修支援	1,209	1,226	1,140	1,249	1,325	1,448	1,436	1,478
宿泊	639	633	607	675	691	702	762	704
日帰	570	593	533	574	634	746	674	774
教育事業	21	40	41	52	79	108	159	138
宿泊	11	20	25	33	46	46	94	76
日帰	10	20	16	19	33	62	65	62
宿泊	650	653	632	708	737	748	856	780
日帰	580	613	549	593	667	808	739	836
稼働率(%)	55.1	53.8	53.7	53.8	55.6	54.4	52.9	52.5

図2 利用者数及び稼働率の経年比較

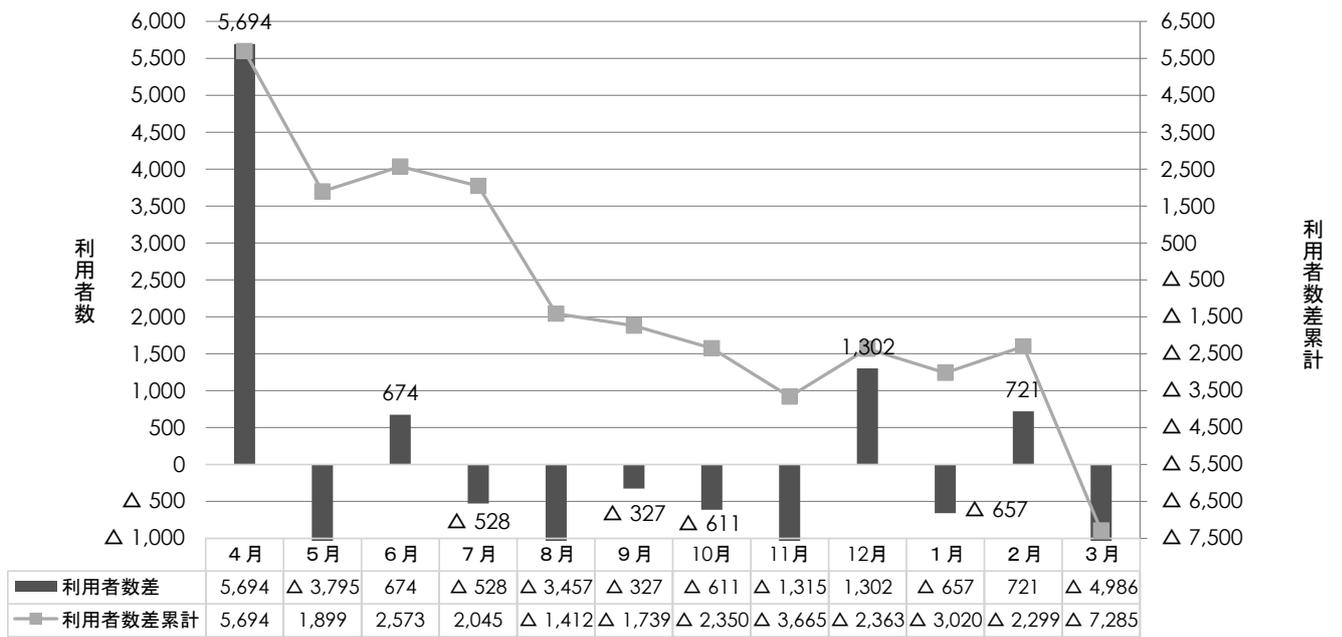


(3) 利用者数・利用団体数・稼働率の前年度差

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計
利用者数	5,694	△ 3,795	674	△ 528	△ 3,457	△ 327	△ 1,739
研修支援	4,564	△ 2,950	△ 483	△ 767	△ 3,855	△ 160	△ 3,651
宿泊	4,646	△ 3,242	△ 671	△ 456	△ 3,554	△ 838	△ 4,115
日帰	△ 82	292	188	△ 311	△ 301	678	464
教育事業	1,130	△ 845	1,157	239	398	△ 167	1,912
宿泊	0	△ 186	98	55	96	36	99
日帰	1,130	△ 659	1,059	184	302	△ 203	1,813
宿泊	4,646	△ 3,428	△ 573	△ 401	△ 3,458	△ 802	△ 4,016
日帰	1,048	△ 367	1,247	△ 127	1	475	2,277
利用団体数	1	26	64	△ 54	20	26	83
研修支援	△ 1	29	51	△ 59	19	28	67
宿泊	5	13	6	△ 10	0	0	14
日帰	△ 6	16	45	△ 49	19	28	53
教育事業	2	△ 3	13	5	1	△ 2	16
宿泊	0	△ 2	1	2	△ 1	1	1
日帰	2	△ 1	12	3	2	△ 3	15
宿泊	5	11	7	△ 8	△ 1	1	15
日帰	△ 4	15	57	△ 46	21	25	68
稼働率(%)	13.9	△ 25.0	△ 2.7	2.5	△ 13.4	△ 6.2	△ 30.9

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	△ 611	△ 1,315	1,302	△ 657	721	△ 4,986	△ 7,285
研修支援	△ 1,681	651	169	△ 697	974	△ 1,369	△ 5,604
宿泊	△ 1,764	712	△ 82	△ 738	822	△ 19	△ 5,184
日帰	83	△ 61	251	41	152	△ 1,350	△ 420
教育事業	1,070	△ 1,966	1,133	40	△ 253	△ 3,617	△ 1,681
宿泊	256	605	14	439	△ 298	△ 548	567
日帰	814	△ 2,571	1,119	△ 399	45	△ 3,069	△ 2,248
宿泊	△ 1,508	1,317	△ 68	△ 299	524	△ 567	△ 4,617
日帰	897	△ 2,632	1,370	△ 358	197	△ 4,419	△ 2,668
利用団体数	8	21	△ 19	13	△ 7	△ 70	29
研修支援	6	29	△ 19	20	16	△ 56	63
宿泊	△ 11	14	△ 29	4	12	△ 41	△ 37
日帰	17	15	10	16	4	△ 15	100
教育事業	2	△ 8	0	△ 7	△ 23	△ 14	△ 34
宿泊	2	0	△ 4	△ 6	△ 21	△ 3	△ 31
日帰	0	△ 8	4	△ 1	△ 2	△ 11	△ 3
宿泊	△ 9	14	△ 33	△ 2	△ 9	△ 44	△ 68
日帰	17	7	14	15	2	△ 26	97
稼働率(%)	0.8	18.4	7.9	5.7	5.1	△ 7.2	△ 0.4

図3 利用者数の前年度差



(4) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
小学校	13,676	11.6	250	15.5
中学校	6,918	5.9	56	3.5
高等学校	10,887	9.2	48	3.0
幼稚園・保育園	4,663	4.0	88	5.4
大学・短大	1,853	1.6	16	1.0
その他の学校	2,618	2.2	44	2.7
青少年活動団体	41,927	35.6	596	36.9
教育事業など	23,286	19.8	138	8.5
官公庁・企業	1,460	1.2	44	2.7
その他	10,503	8.9	336	20.8
合計	117,791	100	1,616	100

図4 団体種別利用者数の割合

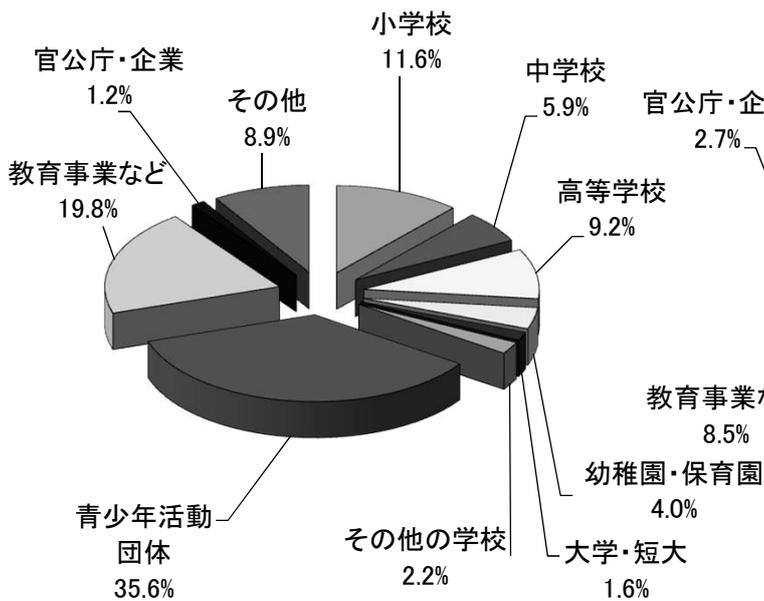
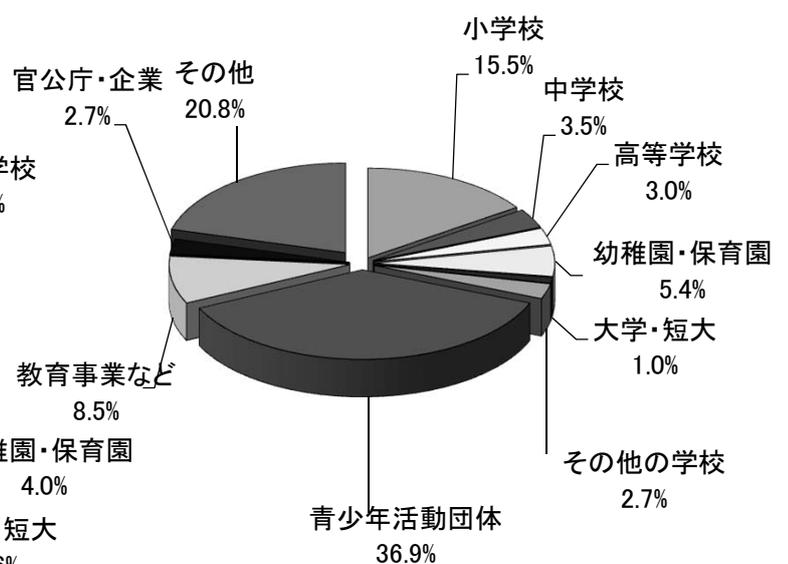


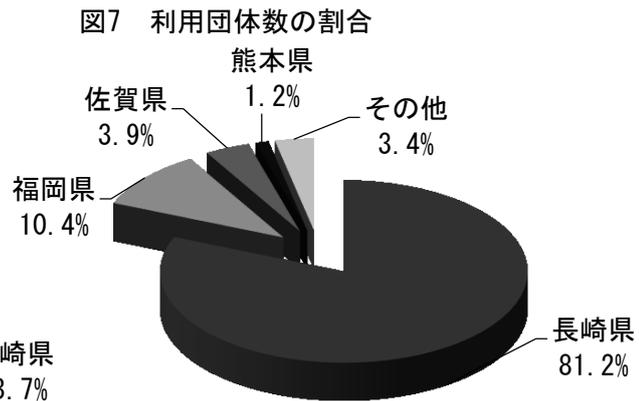
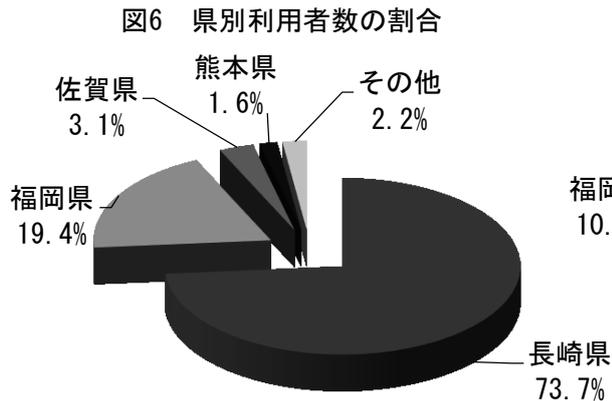
図5 団体種別利用団体数の割合



(5) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	69,635	73.7	1,200	81.2
福岡県	18,331	19.4	153	10.4
佐賀県	2,959	3.1	58	3.9
熊本県	1,522	1.6	17	1.2
その他	2,058	2.2	50	3.4
合計	94,505	100	1,478	100

・当所主催の教育事業を除く。



(6) 県ごとの団体種別利用実績

		幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学校	大学 短大	その他 の学校	青少年 活動団体	官公庁 企業	その他
		長崎県	利用団体数(団体)	54	66	20	13	11	9	11	491
	利用者数(人)	3,952	8,421	4,835	6,013	582	1,499	1,189	33,573	1,198	7,570
福岡県	利用団体数(団体)	1	35	1	9	0	0	2	47	1	28
	利用者数(人)	524	4,539	543	4,802	0	0	639	4,919	22	2,264
佐賀県	利用団体数(団体)	1	4	3	0	0	0	1	26	1	13
	利用者数(人)	78	346	588	0	0	0	24	1,529	158	113
熊本県	利用団体数(団体)	0	0	1	0	0	0	0	14	0	1
	利用者数(人)	0	0	600	0	0	0	0	861	0	58
その他	利用団体数(団体)	0	0	2	0	0	0	1	18	1	28
	利用者数(人)	0	0	298	0	0	0	135	1,045	82	498
合計	利用団体数(団体)	56	105	27	22	11	9	15	596	44	336
	利用者数(人)	4,554	13,306	6,864	10,815	582	1,499	1,987	41,927	1,460	10,503

- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分
- ・「学校」が、宿泊学習の下見で利用した場合は除外

(7) 長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	29,283	42.1	559	46.6
長崎市	20,678	29.7	273	22.8
大村市	8,088	11.6	156	13.0
雲仙市	990	1.4	30	2.5
島原市	2,186	3.1	43	3.6
南島原市	1,252	1.8	33	2.8
佐世保市	1,520	2.2	18	1.5
西彼杵郡時津町	1,729	2.5	23	1.9
西彼杵郡長与町	1,475	2.1	21	1.8
その他	2,434	3.5	44	3.7
合計	69,635	100	1,200	100

・当所主催の教育事業を除く。

図8 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

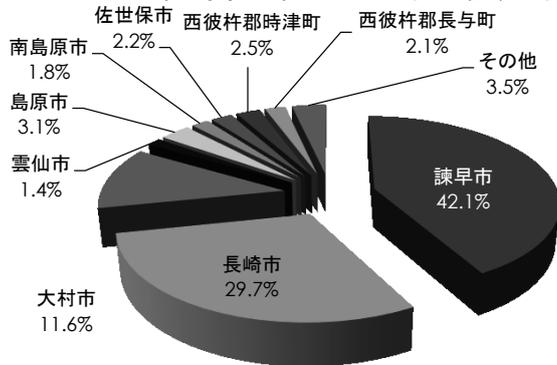
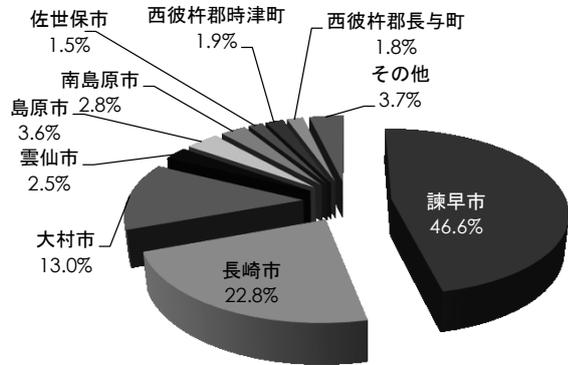


図9 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(8) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	その他の	青少年	官公庁	その他
		保育園				学校	短大	の学校	活動団体	企業	
諫早市	利用団体数(団体)	12	28	15	3	1	1	4	245	19	136
	利用者数(人)	693	3,248	3,035	2,359	132	129	383	15,869	494	2,714
長崎市	利用団体数(団体)	23	5	3	3	2	8	4	121	8	56
	利用者数(人)	2,181	694	703	1,731	143	1,370	553	10,550	413	1,980
大村市	利用団体数(団体)	7	9	1	1	4	0	2	65	9	30
	利用者数(人)	522	1,677	490	169	135	0	87	3,723	157	1,043
雲仙市	利用団体数(団体)	2	2	0	0	0	0	0	11	0	12
	利用者数(人)	70	127	0	0	0	0	0	492	0	298
島原市	利用団体数(団体)	3	7	0	2	3	0	1	4	0	3
	利用者数(人)	189	681	0	574	148	0	166	359	0	23
南島原市	利用団体数(団体)	3	3	0	2	0	0	0	9	0	7
	利用者数(人)	61	174	0	467	0	0	0	392	0	141
佐世保市	利用団体数(団体)	1	0	0	0	0	0	0	7	2	8
	利用者数(人)	66	0	0	0	0	0	0	871	6	577
西彼杵郡時津町	利用団体数(団体)	1	4	1	1	1	0	0	0	3	3
	利用者数(人)	32	634	607	158	24	0	0	0	128	124
西彼杵郡長与町	利用団体数(団体)	1	5	0	0	0	0	0	3	0	4
	利用者数(人)	108	881	0	0	0	0	0	145	0	313
その他	利用団体数(団体)	1	3	0	1	0	0	0	26	0	7
	利用者数(人)	30	305	0	555	0	0	0	1,172	0	357
合計	利用団体数(団体)	54	66	20	13	11	9	11	491	41	266
	利用者数(人)	3,952	8,421	4,835	6,013	582	1,499	1,189	33,573	1,198	7,570

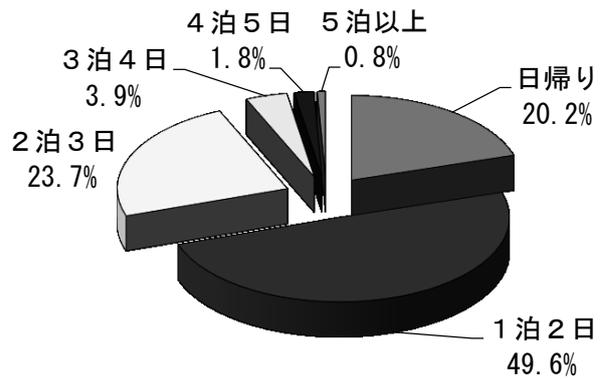
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分
- ・「学校」が、宿泊学習の下見で利用した場合は除外

(9) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	8,286	20.2	774	52.4
1泊2日	20,299	49.6	498	33.7
2泊3日	9,699	23.7	157	10.6
3泊4日	1,612	3.9	30	2.0
4泊5日	754	1.8	14	0.9
5泊以上	308	0.8	5	0.3
合計	40,958	100	1,478	100

- ・利用者数は実利用者数を用いて算出。
- ・当所主催の教育事業を除く。

図10 宿泊日数別利用者数の割合

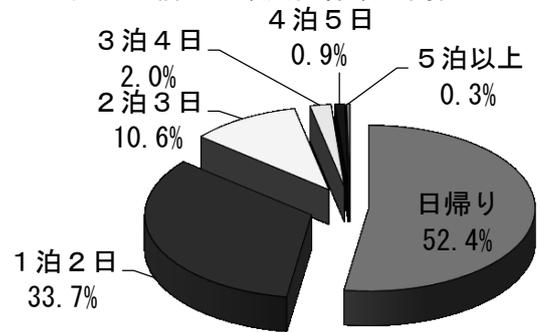


(10) 利用者アンケート

(%)

		満足	やや満足	やや不満	不満
事前の情報提供に関する満足度	H27	75.9	22.1	1.9	0.1
	H28	81.4	17.9	0.7	0.0
	H29	82.0	17.5	0.4	0.1
職員等の教育的支援に関する満足度	H27	86.3	12.1	1.3	0.3
	H28	87.3	11.8	0.9	0.0
	H29	87.5	10.3	2.0	0.3
活動プログラムに関する満足度	H27	87.5	11.5	1.0	0.0
	H28	86.8	12.4	0.7	0.1
	H29	88.0	11.8	0.0	0.2
職員の対応に関する満足度	H27	90.0	9.1	0.8	0.1
	H28	90.6	9.0	0.4	0.0
	H29	91.3	7.4	1.3	0.0
施設を利用したの総合的な満足度	H27	85.4	13.6	1.0	0.0
	H28	89.8	9.4	0.8	0.0
	H29	85.7	13.7	0.5	0.1

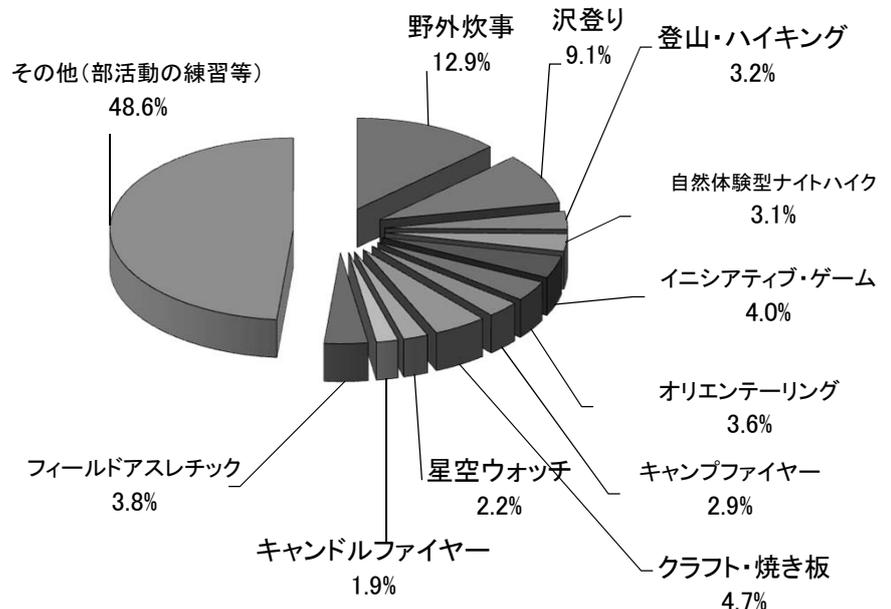
図11 宿泊日数別団体数の割合



(11) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
野外炊事	290	12.9
沢登り	203	9.1
登山・ハイキング	72	3.2
自然体験型ナイトハイク	69	3.1
イニシアティブ・ゲーム	89	4.0
オリエンテーリング	80	3.6
キャンプファイヤー	66	2.9
クラフト・焼き板	106	4.7
星空ウォッチ	49	2.2
キャンドルファイヤー	43	1.9
フィールドアスレチック	86	3.8
その他(部活動の練習等)	1,089	48.6
合計	2,242	100

図12 活動プログラム別利用割合



(12) 開所からの利用状況

年度	S53年度	S54年度	S55年度	S56年度	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	
宿泊	団体数	163	428	489	466	428	460	406	455	465
	利用者数	22,453	86,601	117,570	138,144	142,494	146,857	151,007	153,593	156,750
日帰	団体数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	利用者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総計	団体数	163	428	489	466	428	460	406	455	465
	利用者数	22,453	86,601	117,570	138,144	142,494	146,857	151,007	153,593	156,750

年度	S62年度	S63年度	H元年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	
宿泊	団体数	492	565	585	579	602	622	603	643	712
	利用者数	157,146	158,195	158,789	159,933	160,610	153,276	141,314	127,045	124,072
日帰	団体数	-	-	-	-	-	-	-	21	22
	利用者数	-	-	-	-	-	-	-	1,705	1,517
総計	団体数	492	565	585	579	602	622	603	664	734
	利用者数	157,146	158,195	158,789	159,933	160,610	153,276	141,314	128,750	125,589

年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	
宿泊	団体数	731	636	622	585	560	518	599	695	634
	利用者数	124,034	113,898	108,750	104,592	98,888	91,016	94,632	102,799	97,555
日帰	団体数	17	12	27	31	42	127	273	400	514
	利用者数	1,852	645	1,110	1,706	2,228	5,245	5,996	7,381	8,841
総計	団体数	748	648	649	616	602	645	872	1,095	1,148
	利用者数	125,886	114,543	109,860	106,298	101,116	96,261	100,628	110,180	106,396

年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	
宿泊	団体数	714	664	619	711	731	650	653	632	708
	利用者数	96,400	95,838	93,318	93,427	93,102	96,890	92,634	91,453	92,226
日帰	団体数	571	626	570	702	614	580	613	549	593
	利用者数	9,668	6,854	7,352	12,395	15,549	10,097	17,861	18,833	16,049
総計	団体数	1,285	1,290	1,189	1,413	1,345	1,230	1,266	1,181	1,301
	利用者数	106,068	102,692	100,670	105,822	108,651	106,987	110,495	110,286	108,275

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計	
宿泊	団体数	737	748	856	780	23,946
	利用者数	94,337	96,931	90,892	86,275	4,605,735
日帰	団体数	667	808	739	836	9,954
	利用者数	21,258	28,081	34,184	31,516	267,923
総計	団体数	1,404	1,556	1,595	1,616	33,900
	利用者数	115,595	125,012	125,076	117,791	4,873,658

注：昭和53年度～平成5年度の利用者数は現行とカウンターの仕方が異なっていたために、現行の方法に合わせて試算した。

(13) 平成29年度傷病発生状況

1) 内科系

		発熱感冒	頭痛	感染症	腹痛(胃炎等)	嘔吐	目眩・貧血	疲労	熱中・脱水	喘息	過呼吸	アレルギー系	体調不良	吐き気	その他	小計	
屋内	自由時間(屋内)	8	2		3	3		2					1		2	21	
	屋内スポーツ レクリエーション	2	1		1	1			1	1			1	1	4	13	
	研修室活動	3	1		2	1							1			8	
	食事中	1	1		1	3	1								1	8	
	移動中(屋内)	1	2					1							1	5	
	入所前(屋内)	1														1	2
	クラフト活動							1									1
	武道(屋内)																0
	就寝中																0
	その他(屋内)	10		4	1	2	1						2		1	21	
	屋外	登山							2	3	1						6
野外炊事							2							1	1	4	
つどい(屋外)			1			1	1									3	
入所前(屋外)			1										1			2	
沢活動			2													2	
野外オリエンテーリング			1		1											2	
移動中(屋外)			1													1	
ハイキング																0	
屋外スポーツ レクリエーション																0	
その他(屋外)																0	
屋内合計		26	7	4	8	10	2	4	1	1	0	0	5	3	8	79	
屋外合計	0	6	0	1	1	3	2	3	1	0	0	1	1	1	20		
総計	26	13	4	9	11	5	6	4	2	0	0	6	4	9	99		

図13 状況別傷病発生率(内科系)

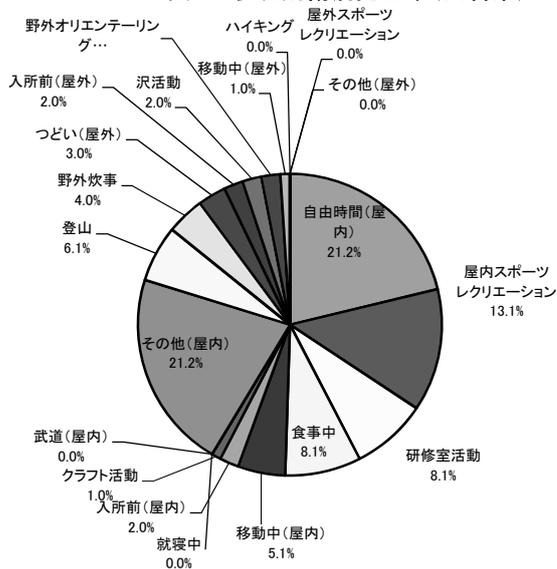
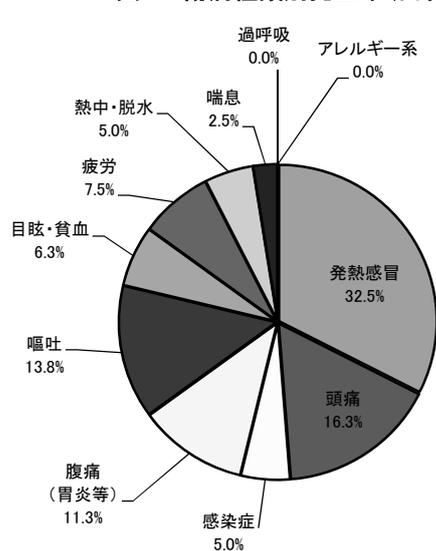


図14 傷病種類別発生率(内科系)



2) 外科系

		擦過傷	切り傷	火傷	靱帯系	捻挫打撲	生物系	骨折	皮膚科系	その他	小計
屋内	屋内スポーツ レクリエーション		1			1		1		1	4
	移動中(屋内)							1		1	2
	自由時間(屋内)		1								1
	クラフト活動										0
	武道(屋内)										0
	その他(屋内)	2								1	3
屋外	登山					1	1		1	2	5
	野外炊事		2			1					3
	移動中(屋外)	2									2
	つどい(屋外)		1				1				2
	野外オリエンテーリング					1	1				2
	ロープスコース									1	1
	自由時間(屋外)							1			1
	研修室活動										0
	キャンプファイヤー										0
	沢活動										0
	その他(屋外)					2					2
屋内合計		2	2	0	0	1	0	2	0	3	10
屋外合計		2	3	0	0	5	3	1	1	3	18
総計		4	5	0	0	6	3	3	1	6	28

図15 状況別傷病発生率(外科系)

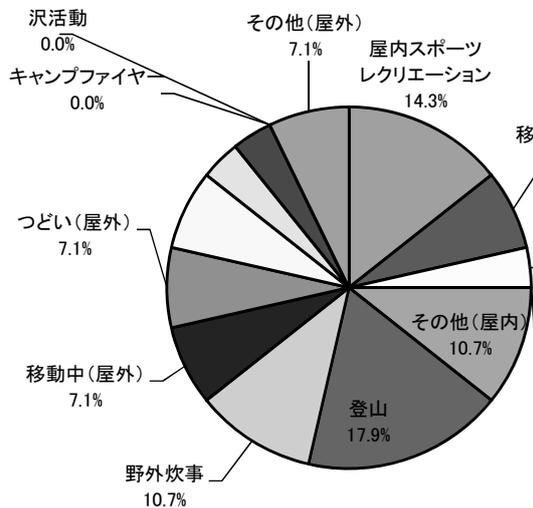
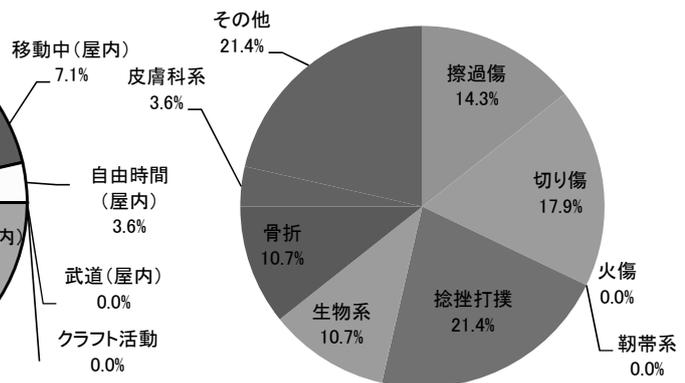


図16 傷病種類別発生率(外科系)



3. 工事等実施状況

(1) 主な工事

1) 改修工事

① キャンプ村炊事場かまど補修工事

経年による劣化で、コンクリート製のかまどの一部が剥げ落ち、野外炊事の活動に支障を来していました。金物等を固定し直し、モルタルで修復し、強度と安全性を高めました。

H29. 10. 20 (株)山口建設



② 別館もず棟 LED 照明改修工事

政府の方針である「2020 年までに、公的設備・施設の LED 等高効率照明の導入率 100%達成」を受け、所内の照明機器を省エネ効果が高く、明るい LED 灯に順次更新しています。本年度は別館もず棟の照明を LED 灯へ改修しました。

H30. 3. 20 三和通信長崎(株)



③ 屋外トイレ改修工事

野外炊事場に隣接している屋外トイレを、車椅子利用者も利用できるよう改修しました。これにより、野外炊事や屋外活動時において、トイレを使用する際、わざわざ本館に移動する必要がなくなりました。

H30. 2. 20 三誠工業



④ 中水補給水管漏水改修工事

水洗トイレの洗浄水は浄化槽にて再生処理された「中水」を使用していますが、中水の不足時は上水（井水）から補給しており、この上水の埋設管が老朽化し、漏水していることがわかりました。塩化ビニル管と交換し、耐久性を高めました。

H29. 4. 25 三誠工業

⑤ 大浴室ガス給湯器取替工事

今冬の大雪と厳しい低温により、屋外に設置されているガス給湯器内の給水管が凍結、破裂し、電気基盤が水損したため、給湯器本体を交換しました。

H30. 2. 8 三誠工業



2) 設置工事

① レストラン入口流し台設置工事

レストラン内出口側に設置されている給水コーナーは出口付近ということもあり、給水時は大変混雑していました。今回、入口側にも設置したことにより、混雑が解消され、レストラン施錠後の夜間も給水できるようになりました。

H29. 5. 12 三誠工業



② 温水洗浄機能付便座設置工事

特別支援学校や幼稚園・保育園の先生、幼児をもつ保護者の方から設置要望が寄せられていた温水洗浄機能付きの便座を本館の5箇所を設置しました。使用者の快適性も高められ、介助者の負担軽減にも貢献できるようになりました。

H30. 2. 13 三誠工業



③ 通路照明設置工事

本館から身障者駐車場までの通路に屋外LED灯を設置し、夜間でも安全に移動できるよう整備しました。

H29. 6. 1 (株) 九電工諫早営業所



(2) 主な施設整備

1) 機器の購入・更新

① 野外炊事場テーブル, ベンチ

長崎刑務所へ製作を依頼し, 作業製品として, 平成 28 年 7 月から更新を始めました。

平成 30 年 1 月に必要数が揃い, すべてのテーブル (80 台), ベンチ (160 台) を入れ替えました。

H30. 1. 19 公益財団法人矯正協会



② 樹木粉碎機

樹木を粉碎し, ウッドチップを製造する機械を購入しました。ウッドチップは, あそびの森やロープスコースなど野外活動中の転倒を和らげるクッション材として, また野外炊事の際の着火材として利用します。

【教育機能向上のための教育設備の整備】

H30. 1. 9 (株)福岡九州クボタ諫早営業所



③ 冷凍庫 (ピラーレス)

レストラン厨房内の, 経年により機能が低下した冷凍庫 2 台を更新しました。

【機器更新費】

H29. 10. 20 (株)フジマック長崎営業所

2) 施設保全

① あそびの森遊具点検改修

利用者が安全に遊べるよう毎年, 木製遊具の点検, 整備を行っています。

今年度は遊具のうち腐食があった「丸太の砦」の丸太交換と「林間遊泳」のワイヤー締め付け, 調整を行いました。

H29. 9. 8 日本道路(株)長崎営業所



② 消防設備点検及び修繕工事

消防設備機器の法定点検を年2回行っています。点検により作動不良等、不備がみられた機器等の交換，調整，修理を行いました。各機器が火災時に確実に作動するよう機能の維持に努めています。

H29. 11. 15 株式会社フジオカ

③ 玄関タイル補修工事

玄関付近は，利用者の往来が最も激しい場所であり，また経年による地盤の歪みも影響し，タイルの摩耗・破損，浮き・剥離が多く発生し，通行に支障を来していました。歪みの影響や温度差による伸縮を最小限に抑えるため，目地に弾力性のあるコーキングを使用し，タイルを補修しました。



H30. 3. 30 親和土建（株）

④ 全館床面ワックス塗布

施設の保全と衛生環境維持ため，各建物床面の古いワックスを剥離し，新たにワックスを塗布しました。

H30. 3. 6 (株)サニクリーン九州諫早営業所

⑤ 本館南斜面植林伐採

平成28年度より，本館南側諫早市管理の杉，檜が伐採され，替わってクヌギやナラの広葉樹が植えられています。29年度はそりみね林道入口付近，沢Cコース西側斜面が植え替えられました。

長崎南部森林組合伐採，植林



4. 施設業務運営委員

(1) 名簿

	氏 名	職 名
1	江口 康	佐賀県県民環境部まなび課生涯学習・体験担当係長
2	大谷 俊浩	福岡県教育庁教育企画部社会教育課主幹社会教育主事
3	小川 広孝	諫早市教育委員会生涯学習課指導主事
4	小原 達朗	長崎大学名誉教授
5	楠富 香織	長崎県教育庁生涯学習課県民学習推進班指導主事
6	野中 豊明	長崎県立千々石少年自然の家所長
7	松尾 孝一	一般財団法人長崎県子ども会育成連合会事務局長
8	村田 博	コスモス花宇宙館館長
9	森永 玲	長崎新聞社論説委員長
10	薬師寺結希	諫早市立諫早小学校教諭

(委員氏名50音順)

平成29年度の施設業務運営委員は、25年度から引き続き5年目になる。
利用者獲得にかかる意見等を幅広く伺うことが出来た。また、平成29年度から開催時期を変更することを検討し、早い時期に開催し、より多くの意見等を伺えるように準備を行った。

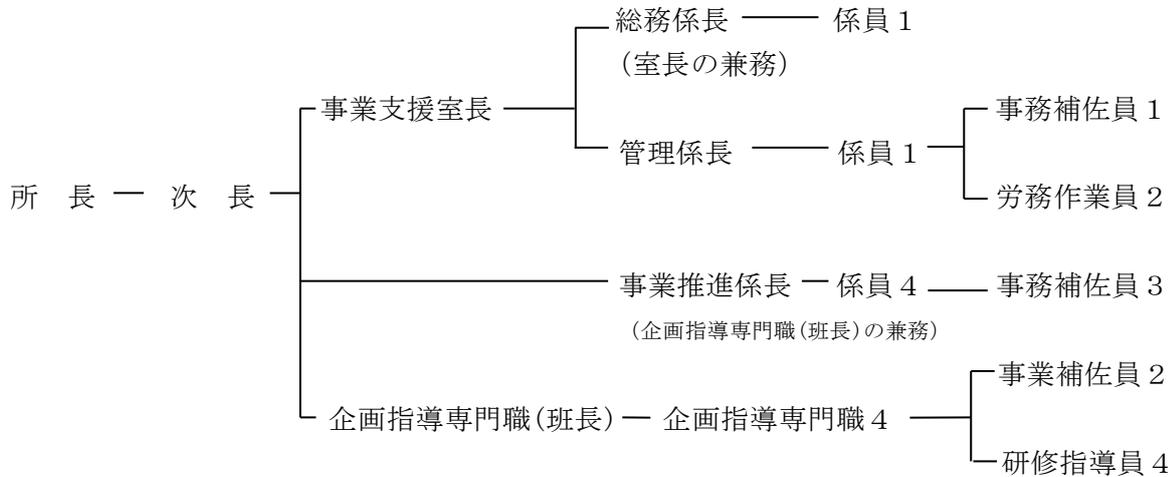
(2) 開催状況

平成29年度は、施設業務運営委員会を下表のとおり開催した。

	期 日	議 題
第1回	平成29年7月13日	①国立青少年教育振興機構について ②国立諫早青少年自然の家について ③今後の課題等について
第2回	平成30年3月23日	①平成29年度事業等報告 ②今後の課題について

5. 組織図・職員名簿

(1) 組織図



所長 1	次長 1	室長 1	係長 1	専門職 5	主任・係員 6	非常勤職員 1 2	合計 2 7
------	------	------	------	-------	---------	-----------	--------

(2) 職員名簿

職名	氏名
所長	内山 祐二郎
次長	林田 一彦

職名	氏名			
企画指導専門職(班長) (兼)事業推進係長	山口圭吾			
企画指導専門職	田中博道	渡部孝一	原 将成	古賀佐智恵
事業補佐員	林田百代	米田 稔		
事業推進係主任・係員	(主任)中村匡寛	(主任)樋口達也	鍬塚 薫	園部 翔
事務補佐員	中島康子	中道あゆみ	宇都志津佳	
研修指導員	岡部一樹	大串陽水	吉原裕介	福菌恵子

職名	氏名	
事業支援室長 (兼)総務係長	池野静香	
総務係員	西川幸希	
管理係長	上戸正仁	
管理係員	大井手仁美	
事務補佐員	大石昌恵	
労務作業員	小森庄二	辻 正則

III 参 考

1. 平成 30 年度事業計画一覧

(1) 普及啓発事業（体験活動や基本的な生活習慣等の重要性に関する普及啓発）

事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1 タラッキーキャンプ	①5.19(土)～5.20(日) (1泊2日) ②5.26(土)～5.27(日) (1泊2日) ③7.7(土)～7.8(日) (1泊2日) ④9.8(土)～9.9(日) (1泊2日) ⑤9.29(土)～9.30(日) (1泊2日) ⑥10.20(土)～10.21(日) (1泊2日) ⑦12.7(金)～12.9(日) (2泊3日)	小学校1年生 ～6年生 各30名	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。	・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・登山
2 アドベンチャーキャンプ	8.19(日)～8.25(土) (6泊7日)	小学校3年生 ～中学校3年生 30名	長期の自然体験活動を通して、たくましく生きる力を育む。	・登山 ・沢登り
3 ファミリーキャンプ	①6.9(土)～6.10(日) (1泊2日) ②10.13(土)～10.14(日) (1泊2日) ③12.22(土)～12.23(日) (1泊2日)	幼児や小学生 のいる家族 各40名	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。	・野遊び ・季節の体験活動
4 仲間とつながる力をつけるキャンプ	3.16(土)～3.17(日) (1泊2日)	小学5～6年生 20名	「いじめられない・いじめを許さない・いじめない」という意識・態度を培う。	・アサーティブコミュニケーションを用いたプログラム
5 ドリーム教室（バスケットボール編）	①女子2.23(土)～2.24(日) (1泊2日) ②男子3.2(土)～3.3(日) (1泊2日)	中学生のバスケットボールチーム 各240名	バスケットボールコーチによる講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者間の交流を図る。	・講習会 ・試合
6 ドリーム教室・ソフトボール編	1.12(土)～1.13(日) (1泊2日)	中学生のソフトボールチーム 200名	ソフトボールの実業団選手による講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者間の交流を図る。	・講習会 ・試合
7 ドッジボール・フェスティバル	3.9(土)～3.10(日) (1泊2日)	小学生のドッジボールチーム 240名	試合や交流会及び宿泊を共にすることで、技術の向上と県内外のチームや個人の交流を図る。	・試合 ・交流会
8 みんなで山をさるこう会	①5.7(月)～5.8(火) (1泊2日) ※北山 ②6.11(月)～6.12(火) (1泊2日) ③7.2(月)～7.3(火) (1泊2日) ④9.3(月)～9.4(火) (1泊2日) ⑤10.15(月)～10.16(火) (1泊2日) ⑥11.23(金・祝)～11.24(土) (1泊2日) ※黒髪 ⑦12.10(月)～12.11(火) (1泊2日) ⑧1.21(月)～1.22(火) (1泊2日) ⑨2.18(月)～2.19(火) (1泊2日) ⑩3.11(月)～3.12(火) (1泊2日)	登山ができる方 各20名	美しい自然の残る多良山系の登山を通して、自然に親しむとともに、参加者同士の親睦を深め、生きがいがづくりと健康づくりの一助とする。	・登山 ・交流プログラム

(2) 地域力向上事業（地域の教育力を高める事業）

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	中1ギャップに対応したプログラム開発事業	①2.14(木)～2.16(土) (2泊3日) ②2.21(木)～2.23(土) (2泊3日) ③2.28(木)～3.2(土) (2泊3日) ④3.7(木)～3.9(土) (2泊3日)	小学校6年生 各30名	青少年を取り巻く今日的課題である「中1ギャップ」に対応するため、関係機関と連携して、モデルプログラムを開発・普及する。	モデルプログラム「小6交流キャンプ」の活動プログラム ・アイスブレイク ・イニシアティブ ・野外炊事
2	生活・自立支援キャンプⅠ (ひとり親家庭の子ども支援事業)	①4.28(土)～4.30(月・祝) (2泊3日) ②9.22(土)～9.24(月・祝) (2泊3日) ③1.12(土)～1.14(月・祝) (2泊3日)	ひとり親家庭の児童 各15名	ひとり親家庭の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	・調理実習 ・本の読み聞かせ ・クラフト活動
3	生活・自立支援キャンプⅡ (児童養護施設の子ども支援事業)	8.12(日)～8.14(火) (2泊3日)	児童養護施設の青少年 15名	児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	・沢登り ・調理実習
4	公立青少年教育施設とのプログラム共同開発事業	年3回程度	小学5年生 30名	公立青少年教育施設の教育力向上を目的に、公立青少年教育施設と連携して、青少年の今日的課題に対応したプログラムを開発する。	・プログラム検討会(年数回) ・モデルプログラム試行(年1回)
5	教科等に関連付けた体験活動プログラム開発事業	6.21(木)～6.22(金) (1泊2日)	小学5年生 40名	集団宿泊活動の教育効果を高めるため、教科等の学習に関連付けた体験活動プログラムを開発・普及する。	・プログラム検討会(年数回) ・モデルプログラム試行(年1回)

(3) 指導者養成事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	NEA Lリーダー養成事業	10.6(土)～10.8(月・祝) (2泊3日)	青少年教育・学校教育関係者、大学生 20名	専門的な知識と技術をもって、自然体験活動の普及や振興に貢献する自然体験活動指導者を養成する。	・体験活動の意義 ・体験活動の指導法 ・指導法の実践
2	NEAL インストラクター養成事業	11.8(木)～11.11(日) (3泊4日)	青少年教育・学校教育関係者、大学生 20名	専門的な知識と技術をもって、自然体験活動の普及や振興に貢献する自然体験活動指導者を養成する。	・体験活動の意義 ・体験活動の指導法 ・指導法の実践
3	自然体験活動ボランティア養成研修	6.23(土)～6.24(日) (1泊2日)	大学生・社会人 30名	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。	・講義 ・実習
4	ボランティア自主企画事業	11.23(金・祝)～11.25(日) (2泊3日)	小学生 30名	ボランティア自身が主体的に企画・実施する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実を図り、ボランティアを育成する。	・自主企画事業の活動プログラム
5	教員免許状更新講習	①6.3(日) ②8.17(金) ③9.15(土) ④10.6(土)	受講対象者 各30名	学習指導要領改訂で示された児童・生徒の「体験活動」の必要性について、いっそう理解を深め、またその実習体験をすることにより、教育内容の充実に資する。	・講義 ・野外体験活動の実習

6	グループづくりに役立つプログラム研修会（入門編）	6.16（土）～6.17（日） （1泊2日）	教員，施設職員，大学生等 20名	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して，基本となる手法や理論の習得を図る。	・プロジェクトアドベンチャーに基づいたプログラムの体験 ・プロジェクトアドベンチャーに関する講義
7	グループづくりに役立つプログラム研修会（応用編）	11.23（金・祝）～11.25（日） （2泊3日）	教員，施設職員，大学生等 16名	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験と理論講習を通して，その手法や理論の習得を図る。	・プロジェクトアドベンチャーに基づいたプログラムの体験 ・プロジェクトアドベンチャーに関する講義
8	スウェーデンから学ぶ野外教科学習セミナー	11.26（月）～11.27（火） （日帰り2日間）	教員，施設職員，大学生等 30名	スウェーデンで取り組まれている「野外教科学習」の体験を通して，野外で学ぶことのポイントやその背景にあるスウェーデンの「学び」に対する考え方を学ぶ。	・野外教科学習の体験 ・野外教科学習に関する講義

（4）長崎・地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	子ども体験活動フェスティバル	10.27（土）～10.28（日） （1泊2日）	幼児や小学生のいる家族，学童クラブ等 2,000名	長崎県及び市町教育委員会並びに青少年団体やNPO法人等の民間団体・グループと連携し，様々な体験活動を通して，体験活動の楽しさを体感するとともに，体験活動の重要性の普及と啓発を図る。 また，本事業の取組を通じて，関係団体との連携をより一層緊密にし，長崎県下各市町を中心に，地域における体験活動の定着・発展を推進する。	・クラフト活動 ・野外体験活動
2	自然の家通学キャンプ	①11.1（木）～11.3（土） （2泊3日） ②11.8（木）～11.10（土） （2泊3日） ③11.15（木）～11.17（土） （2泊3日） ④11.29（木）～12.1（土） （2泊3日）	小学3～4年生 各60名	自然の家で共同生活を送りながら学校に通学する活動を通して，「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身につける契機とするとともに，メディア依存対策の一環とする。	・外遊び ・クラフト
3	子どもゆめ基金助成金募集説明会	9月中旬に日帰り2回	青少年団体関係者等 各20名	子どもゆめ基金助成金募集説明会を開催し（長崎県・佐賀県を予定），広く当基金の存在を周知することで，体験活動を推進する機運の向上を図る。	・助成制度の説明 ・申請書等の作成相談

（5）その他の事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	イングリッシュ・キャンプ	5.12（土）～5.13（日） （1泊2日）	小学3年生 30名	自然体験活動の中で，外国語を聞いたり話したりすることを通して，言語や文化について体験的に理解を深め，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	・ネイチャーゲーム ・キャンドルのつどい

(6) 特別研修支援事業

	事業名	期日	対象・人数	趣旨	主な内容
1	長崎大学教育学部 野外体験リーダー 研修	①4.28(土)～4.29(日) (1泊2日)※日吉開催 ②5.5(土)～5.6(日) (1泊2日)	長崎大学教 育学部2年生 各100名	小・中学校の宿泊体験学習 において補助指導を行う学 生が、自然体験活動プログ ラムの体験を通して、指導 者としての心構えや必要な 知識・技術を習得する。	・オリエンテーリング ・野外炊事 ・講義
2	諫早市少年センター	年6回程度	適応指導教 室に通う児 童及び生徒 各10名	体験活動を通して、協調 性・自主性・耐性・感謝の 気持ちを育てる。	・登山 ・沢登り ・野外炊事
3	大牟田市適応指導 教室	10.1(月)～10.3(水)	適応指導教 室に通う児 童及び生徒 10名	体験活動を通して、協調 性・自主性・耐性・感謝の 気持ちを育てる。	・登山 ・沢登り

平成29年度 国立諫早青少年自然の家 所報
平成30年4月

編集・発行 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家
〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1
TEL:0957-25-9116 FAX:0957-25-9115
URL: <http://isahaya.niye.go.jp/>
E-mail: isahaya-so@niye.go.jp

「早寝早起き朝ごはん」国民運動

地域社会・学校・家庭が一体となって、心身ともに健康な子供たちの育成を目指す運動です。

- 望ましい生活習慣の育成
- 生活リズムの重要性の再認識
- 学習意欲・体力・気力の向上
- 地域ぐるみで支援するための環境整備
シンボルマークの使用など、詳しくは全国協議会のホームページをご覧ください。

早寝早起き朝ごはん



「体験の風をおこそう」運動

社会が豊で便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。
詳しくは「体験の風をおこそう」運動のホームページをご覧ください。

体験の風をおこそう



【多良山系・五家原岳】

「国立諫早青少年自然の家」が位置する「多良山系・五家原岳」は、山頂から東に「有明海」西に「大村湾」南に「橘湾」と三つの海、諫早干拓、雲仙岳、周辺の美しい山なみが眺望できる景観の地です。

周辺には、豊かな水に育まれた針葉樹林が広がり、多くの野鳥や動物たちが生息しております。

また、市街地より比較的近距离で交通アクセスにも恵まれながら、深い暗闇に包まれた大自然の中で美しい星空を観測できる場所は国内でも稀で、貴重な観測ポイントとされています。

「国立諫早青少年自然の家」施設内では、特に自然体験・生活体験施設である「キャンプ村」が、森林内に位置するため、「流れ星を観測できた」との報告が多く聞かれるスポットのひとつです。